

# 事業報告書

令和4年度

社会福祉法人 あかりの家



# 2022（令和4）年度 社会福祉法人あかりの家 事業報告

2023.3.31 現在

「自閉症総合援助センター」として地域のニーズに応えられるよう、また、自閉症や発達障害のある方を中心とした支援を行うために、法人内の各事業所との連携強化を図り、総合的かつ高度な専門的支援を展開できるよう努力した。

## 1. 事業展開

### ① 児童療育支援センターあかり

○児童デイサービス「ふたば」 令和4年4月1日 事業所名称変更（旧あかりの家）

児童発達支援・放課後等デイサービス 定員10名

保育所等訪問支援 令和4年3月31日廃止

住所：高砂市北浜町北脇504番1

○児童デイサービス「つぼみ」 令和4年4月1日 開設

放課後等デイサービス 定員10名

保育所等訪問支援

住所：高砂市北浜町西浜1208-43

### ② 納豆工房なっとこちゃん（多機能型障害者通所事業所）

・令和4年10月1日新設 就労継続支援事業B型開設 定員10名

生活介護事業10名とあわせ、多機能型事業所となった。

## 2. 施設整備、備品購入関係

① 土地購入	高砂市中筋字稲荷前1330番 1,031㎡	15,600千円
② ICT整備	サーバーの入替（5年保証一括購入）	978千円
③ ワークホーム環境改善工事	空調取替・ルーファン設置工事	8,749千円
	女子トイレ改修工事	2,350千円
④ あかりの家	北棟プレハブ事務所改装工事	1,924千円
	エアコン・流し台等取替え工事	1,138千円
	女子トイレ改修工事	926千円

## 3. 令和4年度補助金

・高砂市/生活衛生事業者燃油価格高騰対策一時支援金	50千円
・兵庫県/障害者施設原油価格・物価高騰対策一時金	1,052千円
・高砂市/中小事業者エネルギー価格高騰対策支援補助金	200千円
・兵庫県/障害福祉サービス継続支援事業補助金	2,088千円
・リコジャパン/冬の節電チャレンジ2022	208千円

## 4. 借入金返済終了

借入先	福祉医療機構	借入金	44,500千円
			（平成15年 ワークホーム高砂建築費用として借入れ）
令和5年1月17日完済		令和5年3月13日	抵当権抹消

5. 理事会,評議員会の開催

【評議員会】

開催日	出席者数			
	評議員	理事	監事	事務局
令和4年 6月15日	6	6	6	4
令和4年12月27日	書面決議	—	—	—
令和5年 3月24日	6	5	2	4

【理事会】

開催日	出席者数	
	理事	監事
令和4年 6月 1日	6	2
令和4年12月 2日	6	2
令和5年 3月 9日	6	2

6. 職員配置数

令和5年3月31日現在

事業所名	あかりの家	児童デイ	希望山荘日笠	ワークホーム高砂	納豆工房	あいあむ	クローパー	計
正規	43	3	4	8	6	7	4	75
嘱託	0	3	1	1	1	3	0	9
パート	7	0	4	8	7	1	0	27
計	50	6	9	17	14	11	4	111

※兼務カウントなし・主の従事する事業所のみでカウント

# 2022（令和4）年度 障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

2023. 3. 31現在

## I 沿革（主な実施事業）

事業名		事業開始年月日	
①	障害者支援施設あかりの家	施設入所	'86(S.61). 4. 1 県指定
		生活介護	
②	短期入所	'86(S.61). 9. 1	県指定
③	地域生活支援事業 日中一時支援事業(日中短期)	'07(H.19). 4. 1	6市2町委託事業
④	障害児等療育支援事業	兵庫県	'07(H.19). 4. 1 県委託事業
		姫路市	'08(H.20). 4. 1 姫路市委託事業
⑤	被虐待障害者一時保護支援業務	高砂市	'13(H.25). 6. 1 高砂市委託事業
		播磨町	'14(H.26). 4. 1 播磨町委託事業
		稲美町	'17(H.29). 3. 1 稲美町委託事業
⑦	強度行動障害地域生活支援事業	兵庫県	'19(R.元). 10. 1 県委託事業

<他> ①グループホーム「希望山荘日笠」('02(H.14).10.1)「オリーブの家」('15(H.27).10.1)

「友愛の家」('17(H.29).4.1)の連携施設

- ②連携施設「友愛の家」('17(H.29).4.1)との一体的な運営
- ③附置施設「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」('03(H.15)12. 1)
- ④高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.26). 11)
- ⑤日本自閉症スペクトラム学会 資格認定実習施設('15(H.27). 1)

## II 利用者状況（'23年3月31日現在）

あかりの家利用契約者の分類(あかりの家独自の分類)

		呼称	
あかりの家所属利用者	①入所者		日中は生活介護、WHに通う1名は生活介護と就労B併給(行政調整有)
	②通所者	生活介護	⑥通所 ⑦ロングショート等は、行政と調整の上、夜はショート、日中は生活介護で契約。あかりの家に所属。通所者として扱い、保護者会活動に参加。
あかりの家所属とはしない利用者	③ショート生活介護		ショートステイか日中利用者の内、有期の療育目的や定期的な日中利用等のケースは、行政と調整し、泊はショート、日中は生活介護などとして契約しているところは上の⑦と同じであるが、保護者会活動などに参加しない利用者は、あかりの家所属とはせず、「ショート生活介護」としている。
	④ショートステイ		泊を伴う
	⑤日中一時		日中のみ

以下のデータは、「あかりの家に所属」の、上記①、②の利用者を対象とする。

1 定員と現員 2023年3月31日現在

定員	現 員	
40名	施設入所	40名 (男31、女9)
	生活介護 (①+②)	47名 (男38、女9)

入所者 40 (男31、女9)  
通所者 7 (男7、女0)  
通所内訳 ; 自宅から1、GH友愛の家から5、ショート系⑦1  
内、入所利用者1名は、あかりの家の「生活介護」に籍を残したまま、日中はWH高砂の「就労B」を利用。生活介護利用者は、47名とあるが、1日当たり40名を超えることはない。  
なお、「ショート生活介護(③)」契約者はここではカウントしていない。3月末現在、該当契約者3人。

2 利用者出身地(受給者証発行市町) 2023年3月31日現在

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	4	3	神戸市	11	
加古川市	13	1	尼崎市	2	
播磨町	3	1	名古屋市	1	
姫路市	5		枚方市		1
小野市	1		神河町		1
加東市	1		合計	40	7

左表ではカウントしていない、あかりの家に籍を置かない生活介護契約者(分類③「ショート生活介護」)  
'23年3月末現在、3名(加古川市、姫路市、東京都)

3 利用者年齢 ( )は、通所者で内書 2023年3月31日現在

年齢	10代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69		
男	0	0	1(1)	2(1)	4(2)	2(1)	6	16(1)	6(1)	1	0	38(7)	
女	0	0	0	1	0	0	0	4	3	0	1	9	
合計	0	0	1(1)	3(1)	4(2)	2(1)	6	20(1)	9(1)	1	1	47(7)	
(計)	0	1(1)	7(3)	8(1)	29(2)	2	47(7)						

最年少27歳、最年長68歳、平均49.4歳 (入所利用者平均年齢50.9歳)

4 障害等の程度 ( )は通所者で内書 2023年3月31日現在

(1) 知的障害の程度(「療育手帳」の判定による)

	重度(A)	中度(B <sub>1</sub> )	軽度(B <sub>2</sub> )	合計(人)
男	37(7)	1	0	38(7)
女	9	0	0	9
計	46(7)	1	0	47(7)
比率	97.9%	2.1%	0%	100%

(2) 障害支援区分 平均支援区分 5.64

	区分6	区分5	区分4	区分3	合計(人)
男	29(4)	5(1)	4(2)	0	38(7)
女	5	4	0	0	9
計	34(4)	9(1)	4(2)	0	47(7)
比率	72.3%	19.2%	8.5%	0%	100%

(3) 自閉症または自閉的傾向を有する者

	男	女	計
入所	30名/31名	5名/9名	35名/40名
通所	7名/7名	0名/0名	7名/7名
合計	37(7)人/38(7)人中	5人/9人中	42(7)人/47(7)人中
比率	97.4%	55.6%	89.4%

(4) 重度加算

	入所		通所		総計
男	30人	96.8%	5人	62.5%	88%
女	9人	100%	—	—	

(5) その他の障害

		男	女	計	総計
肢 体	手帳所持	0	0	0	1
	不所持	1	0	1	

5 入退所の状況(あかりの家在籍者)

	年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	
入 所	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
通 所	入	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	11	0	0	1	/	/	/	/
	退	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0	12	/	/	/	/
合 計	入	38	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	1	0	2	1	
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	2	1	

	年度	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	21	計
入 所	入	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1	0	1	0	74
	退	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	0	34
通 所	入	/	/	1	0	1	0	2	3	0	1	0	4	1	0	0	0	0	25
	退	/	/	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	16
合 計	入	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	6	1	1	0	1	0	99
	退	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	3	1	0	0	2	0	50

※①2008年4月 新体系に移行し、通所利用者受入れ

②2013年4月より、あかりの家に籍を置く日中を生活介護契約の短期入所利用者等は、通所者として計上

- 6 在籍年数 (通所者を含む。通所から入所等への移行者は通算。4/1入所は翌年3/31で在籍満1年とする)  
 全利用者平均在所年数27.0年 / 男子平均年数26.9年 / 女子平均年数27.4年  
 入所者平均在所年数 29.4年 / 入所男平均年数30.0年 / 入所女平均年数27.4年  
 通所者平均在所年数 13.3年 / 通所男平均年数 13.3年 / 通所女平均年数 一年

### Ⅲ 生活の概況

#### 1 日課(月～金)

6:30	起床、身支度等
8:00	朝食、歯磨き等
9:15	職員引継ぎ
10:00	ランニング、水分補給
10:30	作業
12:00	昼食、歯磨き等
13:30	作業
15:15	おやつタイム
15:30	入浴(毎日)・夕余暇
17:30	夕食、歯磨き等
18:30	夜余暇、就寝準備
21:00	就床

土日祝、ランニングや作業なし  
 非帰省日の土曜日にはクラブ活動実施  
 \*昨年度はコロナ禍で中止

#### 2 余暇活動

- ①夜の時間帯:絵描き、工作、パズル、雑誌、ドリル等の学習、トモニ100並べ、クロスステッチなど
- ②担当者による買物や散髪、作業工賃での自販機やコンビニでの買物、テイクアウトの購入など
- ③祝祭日や週末など、休日のドライブや散歩などの外出

#### 3 療育活動

##### (1)学習活動

2013年度より実施。当初はトモニ活動チーム4人を中心に活動。トモニ療育研修で、河島先生・高橋先生から教えて頂いたことを日常の中で実践。主に数字(100並べ、タイル並べ)、時計、お金、本読み、漢字、折り紙、書き取り等、月曜日と木曜日の午後に、マンツーマンでの課題学習を行う。

トモニ研修の一旦の区切りを迎えた中で、トモニ療育を知らない世代が増えてきている。そういった職員の学びの場として、今年度は7年目、3年目の職員を対象(計3名)に、基本的な課題学習である100並べを週に一回実践してもらい、CSの再現の作成を通して学びを深めた。

##### (2)料理活動

従来、トモニ活動の一環として料理活動を実施していたが、独立した活動としている。

あかり祭りや忘年会などの行事料理や、バレンタインデーなどのお菓子作り、休日の余暇活動の中での料理作りなどの活動をしていたが、今年度もコロナウイルスの影響で、そのような活動が自粛となった。

##### (3)体操活動

隔週土曜日 13:30～15:00に活動。ダイナミックリズム(DR)や模倣運動を中心に実施。療育的な意味に加え、職員育成、特に新人職員研修を狙っている。現場において集団全体を見る力をつける機会としても考えている。目の前で、利用者の変化を実感しやすい活動になっている。

今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から活動を中止していた。(密になることや公民館への移動のリスクを考えて)

#### 4 クラブ活動

	参加者	実施状況	指導者	実施内容
華道	5人	月2回 隔週、土曜 午前1時間	松尾豊華 先生(ボラ ンティア)	92年10月開始。松尾先生(小原流家元)購入の花を先生指導のもと活ける。活けた花は玄関や交流ホーム、クローバー、事務所等に飾る。



				(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
音楽	8人 + 随時	月1回 (8月は休み) 土曜 or 日曜 13:30~1時間	永江きよみ 先生(ボラン ティア)	98年10月開始。音楽療法として「音楽の特性を生かして、心と心を響かせあう。」宮本啓子音楽療法を勉強中の永江先生が中心になって始まる。ダンス、歌、リズムなど体感するものや楽器等を通じて表現するものなど幅広い。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
アート	3人	月1回 木曜日 午後1時間	安部武先 生(ボラン ティア)	99年1月開始。粘土、自由絵、また季節的な凧作り・面作りなどの創作活動を実施。高砂市美術展、洋画家連合会などに出席。交流ホーム1F(04.10より)をアトリエとして使用。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

## 5 行事関係

### (1) 一般行事(スポーツ行事を含む主な行事)

月	行事名	月	行事名
5	のじぎくスポーツ大会(2年ぶりに参加)	11	加古川ツーデーマーチ(コロナの影響で中止)
	ばんたん親善運動会(コロナの影響で中止)	12	ばんたんゆうあい文化祭(コロナの影響で中止)
8	あかりまつり(コロナの影響で中止)		高砂マラソン(2年ぶりに参加)
10	親子一泊旅行(コロナの影響で中止)	1	第30回ナイスハートバザール(高砂アスパ)実施 年始行事として、うどんづくり会を実施

### (2) グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2人に支援員2人)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、原則公共交通機関(電車、バス)を使用して実施。身体に負担のかかる利用者は公用車利用。(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

代替行事として、「棟別お食事会」を企画・実施。感染予防には十分に配慮したうえで小グループでの食事会を行った。友愛の家に移動したりして特別感を演出した。テイクアウトだけでなく、職員が料理を作る過程を全員で見え、実際に味わった。

### (3) あかり喫茶

帰省日のない金曜日午後、ボランティアグループ秋桜会(5、6人)の応援で、毎月実施。

随時グループで参加。写真で飲み物(コーヒーやジュース、コーラ等)を選び、ケーキ類も数種類から選ぶ。今年度も新型コロナウイルスの影響で年間を通じてボランティアの協力は得ず、内部で実施。

## 6 設定帰省等

保護者会の希望により、開設時から毎週末2泊3日実施。3年目途中より隔週2泊3日帰省に変更。その後、05年度より隔週1泊2日となる。原則、帰省は希望により自由、期末帰省を更に短くした。

2022(R4)年度は、新型コロナウイルスのクラスターが発生した影響で夏季の期末帰省は中止としたが、冬季と春季は予定通り実施した。また週末帰省は毎月1回程度のペースで実施した。

①週末帰省(月1回1泊2日原則) 2泊帰省4人程度、帰省なし15人程度

②期末帰省(夏季5日間、冬季7日間、春季5日間) 期末帰省なし15人

③オンライン面会(7/9, 11/5の2回実施)

## IV 作業の概況

1 作業内容(月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業)入所40名 通所7名 計47名

(1) 施設内作業・3月末現在(4作業種34人)

割り箸班	8人	軽作業棟。割り箸の袋詰め等。(株)マスキ 作業提供。
------	----	----------------------------

さをり織り班	7人	さをり作業棟。さをり糸（一部播州糸、帆布糸）を利用して反物織り。製品化は、ボランティア「さをりの会」（保護者）や職員による。
軽作業班	9人 (14人)	軽作業棟。コイルから銅線の巻取り、リサイクル作業。作業提供：(有)ハタリサイクルファクトリー。 ( )の人数は旭班の利用者数を含む。
プラグ班	10人 (11人)	さをり作業棟で開始。電気部品組み立て。(コンタクト、ロックレバー、端子台、受け金、ホルダーなど)作業提供：(有)米田製作所。2013年6月～ ( )の人数は旭班の利用者数を含む。

(2) 施設外作業・3月末現在(3作業種13人)

マスク班	5人	新型コロナウイルスの影響で年間を通じて(株)マスクの工場の一室を借りることを止め、割り箸袋詰め等の作業をあかりの家地域交流ホームの一室で実施。
旭班	6人	(株)旭運送プロジェクト事業部内で、ライン作業の下準備等の作業。2016年11月～(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)今年度で終了。
WH高砂	2人	WH利用者として、クリーニング作業に従事。1人が毎日車で送迎(就労継続B型)、もう1人が週3回グループホームより通所(生活介護)

2 作業班編成(利用者編成)

利用者の高齢化および体調面への配慮、また作業ノルマや作業種別に応じて作業メンバーをその都度変更。体調面への配慮としては、利用者個別判断が必要であり、暑さ、寒さ、アレルギーなどへの配慮を考えつつも、より利用者が意欲的に活動できる作業提供を考え実施している。

※ 日中活動として47名の利用者が作業を行っている。加えて短期入所、日中一時支援の利用者を加えると50名程度の利用者が活動する状況であり、現状の環境下では各作業場が飽和状態である。

3 福祉バザー、作業製品展示・販売等

11/6	社協ふれあいフェスタ	高砂市文化保健センター	さをり織り商品の販売。
12/10.11	第31回 あかりの家 ナイスハートバザール	イオン高砂	さをり織り商品の販売。コロナにより、実演と見学中止。

4 作業収入と工賃支給(2023年3月末)

作業収入：計 992,273 円…内、工賃支給；計 795,520 円、作業関係支出：計 178,139 円

作業工賃：1人 16,800 円/年支給。 但し、プラグ作業1H延長組 22,800 円/年

※作業工賃基準→1,400 円/月 プラグ作業 1H延長組 1,900 円/月 2H長組 2,100 円/月  
今年度は、コロナクラスターの発生等により作業収入が減少したことを考慮し、作業工賃基準を昨年度より100円減額(1,500円→1,400円)としている。

## V 健康管理

### 1 入通院の状況

科名	通院		入院	
	延人数	延日数	件数	延日数
内科	83	137	0	0
外科	1	1	0	0
整形外科	47	59	2	106
歯科	474	500	0	0
眼科	22	22	0	0
皮膚科	86	97	0	0
耳鼻科	23	24	0	0
精神科	78	119	0	0
婦人科	2	2	0	0
肛門科	16	17	0	0
泌尿器科	21	22	0	0
その他	21	22	0	0
PCR検査	62	73		
計	936	1100	2	106

通院は、月ごとの集計を単純加算。従って、月をまたいだ通院は二重カウントの形になり、「延人数」として表記。

入院は把握可能なため二重カウントはなく、「件数」として表記。

<精神科通院>は、幼少期からの主治医に保護者によって通院することが原則（嘱託医の方針）。保護者の高齢化により園から通院することが多くなってきた。さらに新型コロナの影響で園からの通院が増えた。

### 2 常用服薬者

		男	女	計
精神科薬	てんかん	16	3	19
	安定剤・眠剤等	20	8	28
内科系薬（整腸・肝臓・貧血・便秘等）		26	9	35
皮膚科系薬（水虫・湿疹等）		16	4	20
整形外科系薬（Ca剤・骨粗しょう症等）		3	1	4
眼科系薬（アレルギー）		9	1	10
延べ総計（2重カウントあり）		90	26	116

内科系では、25人が便秘薬を服用。

### 3 健康診断・身体測定等

月	実施内容	月	実施内容
4	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き）	10	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き）
5	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き）	11	体重測定、歯科検診中止
6	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き）	12	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き）
7	体重測定、歯科検診（歯石除去、歯磨き） 健康診断（職員）	1	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き） 健康診断（変則勤務職員）
8	体重測定、歯科検診中止	2	体重測定、歯科歯科（歯石除去、歯磨き）
9	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き） 健康診断（利用者）コロナの関係で7月から変更	3	体重測定、歯科（歯石除去、歯磨き）

健康診断；R2年度から利用者健診も7月に変更。あかりの家で実施（加古川総合保健センター）  
検診科目（身長、体重、腹囲、血圧、尿、胸部レントゲン、採血、心電図、内診）

### 4 ランニング

月～金、朝の引継ぎ後（作業前）、10時頃から、準備体操、ランニング、水分補給を実施。ランニングが負担になる人は、運動場をウォーキング。夏季は、気温が高温になる為、準備体操、ランニングは中止している。（熱中症対策の為）

## 5 ウォーキング班・ダイエット班(企画日課)

班活動としては休止。ただ、随時ウォーキングマシンを利用したり、裏山のぼりは継続している。

## 6 整体(健康・医療の方向から)

毎週木曜日、居室にて13:30から1名10分～15分程度、腰痛の人や筋緊張の高い人などを中心に6人が、永田雄三先生(柔道整復師)にマッサージをしてもらっている。(Ⅵ1の(5)参照)(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

## 7 その他 12/1 インフルエンザ予防接種。新型コロナの影響もあり、全員接種をもらった。罹患者0人。また今年度も、ノロウイルスに感染することはなかった。

# Ⅵ 支援部(医務・厨房含む)からの年度総括

## <支援部>

### 1 利用者関係

#### (1)入所・通所利用者

・7月には感染が広がりクラスターとなったが、重症化しやすい利用者は感染することなく過ごせ、守り切る事が出来た。

・今年度もコロナウィルスの感染予防対策の徹底により、帰省が月1回出来ない時もあった。様々な行事も中止になる中、現状を維持すること、コロナ禍でも利用者が大きく状態を崩すようなことがないような支援を主に意識して運営を行った。帰省関係でのトラブルなどが予想されたが、皆が同じように帰省しないことで、集団の意識そしてそれが当然のように維持できた。支援面でも帰省変更の伝え方などを統一し、ある程度の見通しを残して伝えることが、結果としては良かったのではないかと評価している。

・今年度もコロナ禍ということで、例年に比べると活動が少なくなったが、祝日にはデザート作りやBBQを行ったり、個別に作品作りを行ったりと、あかりの家でも楽しめることを考えて実施した。また、散髪も園内で実施してきたが、徐々に美容院、理容院に行けるようになった。外出も少しずつだが実施できた。

・骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への介護的な支援が徐々に必要となってきた。

#### (2)強度事業対象者

・2022年度強度事業として2ケースを受入れ。2ケース共に受け入れ前より、状態は改善され、家庭や地域の事業所でも安定した生活を送られている。今後、月1回程度、あかりの家のショートステイ利用もあるので、状態把握しながら、その都度、必要な支援、家庭へのアドバイスをやっていく。

### 2 職員関係(職員の育ち)

・今年度の大きなテーマは若手職員(3年目以下)をどう育てていくかという事であった。

具体的には、療育研修での発表に向け、取り組みを継続していく事。2年間継続して取り組めた事は、大きな収穫であり、職員の成長に繋がったと評価している。また、新任職員に関しては、コロナクラスターなど、我々も経験したことのない事が起きたが、一生懸命現場を支えてくれ、貴重な体験になった。

### 3 今年度の総括

・2022年7月末にコロナのクラスターが発生したが、重症化しやすい利用者を守るという強い気持ちで職員がまとまり、重症化しやすい利用者が感染することなく乗り越える事が出来た事は、職員としての自信にも繋がっている。

・強度事業、療育研修での3年目職員の取り組みにおいて、目標を明確にしつつ、年間を通して各職員が取り組む事が出来た。利用者支援を通して、職員が成長していく事を実感出来た。

## <医務室>

### 1 健康診断(年1回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。

今年度は、肝機能障害5名(てんかんの薬の影響や経過観察)、脂質異常2名(大きな異常なく、経過観察)、心電図異常3名(大きな異常なく、経過観察)、貧血9名(うち2名内服、1名注射治療中、他は経過観察)、胸部レントゲン異常1名(経過観察)であった。

## 2 日々の健康観察

丁寧な健康観察は、利用者の体の変化に早く気づき、回復を早める。また、園内感染も最小限に防ぐ。新型コロナウイルス感染症対策として、体温測定回数を増やすなど異常の早期発見に努めた。

## 3 新型コロナウイルス感染症予防

新型コロナワクチンは1名のみ2回接種まで、他の利用者は4回目まで接種済み。

新型コロナウイルス感染症対策として、手洗い、消毒、換気やマスク着用の徹底に全職員で取り組んでいる。さらに職員はフェイスシールドを着用して感染防止強化に努めた。

しかし、7月末～8月初旬にかけて新型コロナウイルス感染のクラスターが発生。利用者37名、職員11名が感染した。R5.1月は職員1名、利用者2名に新型コロナウイルス感染が確認されたが、早期隔離を実施し、拡大を防ぐことができた。

## 4 歯科検診

園でも朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きを実施している。

毎月実施していた歯科検診であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は8月、11月が中止となった。そのような中でも治療が必要な方や異常が起きやすい方を優先して通院したり、日々の歯磨き強化をしてもらい、口腔内の健康維持に努めた。

## 5 痔、腰痛対策

痔対策は予防としての便秘対策も含め、悪化防止に努めていく。腰痛の方も数名通院したが、現状、治療はないため予防に取り組んでいく。(冷やさない、正しい姿勢の保持等)

## 6 骨密度測定実施

今年度も骨折者が数名。骨粗鬆症を指摘されていた方ではないが、今後も加齢に伴って増える可能性がある。異常がない方も定期的に骨密度を測定して、予防に努めていく。

骨粗鬆症治療中(注射や内服薬)の4名に関しては、定期的に骨密度測定を実施し改善傾向である。うち、1名は年度途中で内服薬を中止するこになった。

## 7 排便対策

精神科の薬を内服している方が多いため便秘が多い。今年度も新型コロナ対策の影響で活動量も減ったため、さらに悪化した方もいる。利用者によっては便秘薬を内服していても排便がない方、薬の効きすぎで下痢になる方もいる。便秘や下痢はQOLの低下につながるため、毎日排便記録をとり、便秘や下痢の際は主治医の指示の範囲内で薬の増減を行った。

## 8 血圧

支援員の協力を得て、血圧に異常がない方も順番に2週間ずつ血圧を測定している。そのおかげで今年度は1名の血圧異常を発見し、通院・治療へつなげることができた。今後も加齢に伴って増えてくる可能性があるため、他部署の協力を得ながら早期発見につなげていく。

## 9 一時救命処置講習

加齢に伴い、心筋梗塞など急変を起こす可能性も高くなっていくため、職員を対象に一時救命処置講習をR5.4.1に実施予定。(AEDのデモンストレーション機器と人形を借りて実施)

## <厨房>

1 令和4年度施設目標 「利用者個々の健康維持増進に配慮した安心で安全な給食提供」

## 2 実施内容

### (1) 年間実施食数

	利用者	ショート	友愛	職員	総食数
全月計	55,540	4,093	4,214	5,718	69,565
月平均	4,628	341	351	476	5,797

### (2) 栄養ケアマネジメント

対象者	実施期間	モニタリング実施
-----	------	----------

利用者 40名	通年	6月、9月、12月、3月
低リスク 40名	中リスク 0名	令和4年度計画変更者 0名

(3) 衛生 ①東洋産業害虫駆除毎月1回、②消毒年3回、検便毎月1回

(4) 防災 ①自主点検 終業時毎日実施

②災害用(非常食・飲料水・備品・廃棄容器)外倉庫に備蓄

(5) その他 価格調査2月実施

### 3 業務取り組み内容

①行事食(秋祭り、節分、ひな祭り等)、②手作りおやつ 毎水、日曜日提供、

③栄養ケアマネジメント、④厨房会議(月1回)、⑤給食会議(8月、12月、3月)、

⑥災害食提供訓練(11月)、⑦お楽しみメニュー

### 4 総括、今後の課題

・今年度は8月にクラスター、1月にもコロナ拡大防止の為、利用者さんの体調に応じて献立変更、廃棄容器で支援部と連携を取りながら食事を提供できた。

・Oさんのペースト食への移行、利用者さんの骨折が続いていたのでカルシウムの強化献立等、高齢化の利用者さんの状況に合わせて健康保持に努めている。

・コロナ禍の制限もある中であつたが、行事食、お楽しみメニュー、新たに年明け行事として利用者さんと手打ちうどんを作ったり、屋外での行事ではたこ焼き等利用者さんに楽しんでもらえた。

## VII 職員研修

### 1 支援員研修

(1) あかりの家事例研究会(7月10日(日)10時～12時 ZOOMによるリモート研修)

講師(助言者): ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授

インクルーシブ教育研究センター長 青山新吾先生

① 開催趣旨 (※今年度初めて法人全体での研修として実施)

ASD(自閉症スペクトラム障害)の人たちの支援には「生涯援助」の視点が欠かせません。

「自閉症総合援助センター」は各ライフステージに沿って、あるいはその時々々の状態や状況に応じて、高度な専門性と総合的で多様なニーズに対応するために必要とされる、総合的な援助体制です。(社福)あかりの家では、2016年の設立30周年を機に自閉症総合支援センターを標榜し、総合的支援を推進しています。(法人パンフレットより)

この事例研究会では、ASDの人たちへの自分たちの実践の共有を深め、希望ある次世代の育ちの場(その為に先輩も力を高める)として開催したい。

② プログラム

	内容	備考
10:00	開会あいさつ	
10:05～10:50	実践報告①(児童デイ) 「繋がり」がMくんの人生を動かした～未来へ踏み出した一歩～	発表20分、質疑15分、コメント10分
10:50～11:35	実践報告②(クローバー) (2021年度)ひょうご発達障害支援センターの実践より	
11:35～12:00	あかりの家実践集	

(2) 学習会・相談日(囑託医平井先生による。週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

①	5/21(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
②	6/18(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
③	7/16(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
④	8/20(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑤	9/17(土)	平井 Dr.	クローバー
⑥	10/15(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑦	11/12(土)	平井 Dr.	クローバー

⑧	12/10(土)	平井 Dr.	クローバー
⑨	1/14(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑩	2/18(土)	平井 Dr.	クローバー
⑪	3/11(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談

(3) かくたつ療育研修 (2000年10月開始)

スーパーバイザー：(有)かくたつグループ代表取締役 片倉厚子先生

①第1回 10/30 リモート研修

- ・コロナクラスター対応
- ・「働きかけ」をテーマに1Fが発表

②第2回 2/26 リモート研修

- ・「3年目の育ち」をテーマに2Fが発表
- ※外部参加：三気の家、三気の里、麦の子会

事前に資料を作成し片倉先生に送付。当日、ケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスを学ぶ。その後、利用者把握で参加できなかった支援員に参加者から説明。

研修終了後、各支援員は「研修を終えて(療育のポイントと感じたこと等)」のレポートを提出。後日、片倉先生から質問等に対するコメントをいただく。

リモート研修になったことで、麦の子会研修、三気の家、三気の里の研修にも参加している。

(4) トモニ療育研修 (2010年11月開始)

2010年11月、トモニ療育センター(愛媛県)河島淳子先生・高橋知恵子先生を、講師招聘内部研修としてお招きしたのをきっかけに、2011年よりトモニ療育研修として実施してきた。

2020年、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、2年連続での見送りは避けたいとの思いで河島先生に「オンライン研修」を依頼。しかし、「リモートでは、本当に大切な所が伝わるとは思えない」との返事を頂き、更に「一応完結している。十分にやってきた」「これからは皆さんが本物になっていく」とのお言葉を頂き、一つの区切りを迎えた。

2022年度については研修としては動きはなく、前述した学習活動のレポートに対してのコメントや助言を行ってきた。次年度以降も、研修と言う形での動きはなく、もし実現するとすれば、先生に来ていただくのではなく自ら学びに行くスタイルとすることを確認している。

(5) 整体(研修の方向から)

<経過> 2007,2008年度の講師招聘研修に来ていただいた永田雄三先生(柔道整復師)の往診(毎週木曜日午後)を、職員研修として位置づけ。2017年度には、事例研究会でも整体を取り上げ、支援部全体に整体の知識を学ぶ機会があった。利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方や日常に取り入れられる働きかけのノウハウや、そのヒントを得る。そして、それを各担当者や各フロアにつなげ、実践していく。利用者との関わり方を広げる、関わり方の知識をつけるために、若手職員(1~3年目)を中心に学ぶようにしている。主に担当ケースを取り上げて診てもらいつつ、学んだことを現場でも活かせるように係から話をしている。

<今年度> 新型コロナウイルスの影響で、今年度も再開できなかったが、再開の目途が立ち次第、永田先生と相談し、再開の予定。整体の係の職員の中には、整体に未だ参加したことのない職員もいるため、レクチャー含め、整体の係でない若手職員にも整体の意義と身体への触れ方を学んでもらう予定。

(6) 中堅職員研修

2020年に作成された“あかりの家キャリアパス”を基にしながら研修を展開した。

中堅層に求められる役割をおさえつつ、中堅職員が主となって企画・発表する学習会(嘱託医の先生を招いた勉強会)を実施した。昨年度から大きなメンバー変更もなく、自分たちで考える仕組み作りや、期限を設けて取り組みを組み立てて評価する流れを昨年度同様に実感してもらった。それぞれに中堅としての役割意識が芽生えたと評価している。

(7) 課題検討委員会

「危機管理」担当を新設。感染症、防災、夜間救急体制（応急処置）などを所轄し、既存の部会（①防火・避難訓練、②保健衛生）をリードしていく形で進めた。

【新型コロナウイルス感染対策委員会】

新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年度3月新設。

<委員>川西Ns、施設長、支援部長、1Fフロア長、2Fフロア長

<主な活動>

①感染予防への取組み推進

(ア) 玄関に手洗い場を新設。出勤時、手洗い、手指消毒、検温後に入室を徹底。

(イ) 特に感染しやすい場面として、食事・歯磨き・入浴の支援など、利用者がマスクを外されている場面での対応に留意した。感染防止は元より、濃厚接触者にも該当しないようマスクに加え、フェイスシールドを日常的に着用して支援に当たった。食堂での感染防止の為、毎日各食事前に検温し、発熱者等が集団での食事に入ることがないように努めた。オミクロン株流行後、午後の作業は取りやめ、少人数での入浴を行う日課に切り替えた。

(ウ) 職員は利用者と一緒に食事は行わず、別の場所で黙食。

(エ) 利用者のマスク着用について、一部課題が残る方がおられるものの100%の着用。マスク非着用の時間を最小限に努め、入浴後も脱衣場で着用してからフロアへ移動。

②BCP（業務継続計画：感染症編）の作成（2022.1.1）

③利用者の帰省及び外部者（ショートステイ、業者など）の利用についての判断

④非常時の連絡体制〔連絡網を廃止し、LINE公式アカウント導入、フロア職員の連絡先簿作成〕

⑤オンライン面会の継続開催

⑥感染症対策研修会の開催

<感染などの状況>

① 2022.7 新型コロナウイルス感染のクラスター発生〔7/20(火)～8/12(金)：23日間で終息〕

感染利用者 37/48名（1F:16/23名、2F:18/19名、GH友愛の家 3/6名）

② 2023.1 新型コロナウイルス感染（利用者2名で終息）

<評価>

新型コロナ感染が流行して3年目の今年度、施設内でクラスターが発生した。

反省点として、利用者のPCR検査時に拒否的な動きから、きちんと検体が取れていなかった可能性があげられる。

現時点で利用者にコロナ感染者が出た場合、(A) 1Fで感染者が出た場合でも、2Fは棟封鎖せずに過ごせることへの挑戦、(B) 全棟封鎖の場合、3日間で終えたい。その為には、感染ルートの特定がキーとなる事を危機管理会議で確認した。

(8) 出張研修（主なもの、オンライン含む）

月	研修内容(実質研修期間)
5～	県知協・強度行動障害SV養成講座、ブラッシュアップ研修、報告会(12回)
5～	三気の家・三気の里・麦の子会合同かくたつ研修(6回)
6～7	強度行動障害支援者養成研修(国研修)
1～3	強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)
9	サービス管理責任者研修
11	障害者虐待防止対策(アンガーマネジメント)研修
11～12	社会福祉士実習指導者講習
1	全日本自閉症支援者協会大分大会
2	サービス管理責任者更新研修
3	全自者協近畿ブロック情報交換会



## 2 新任職員研修(支援員)

### (1) 内部研修 (新任研修プログラムによる年間研修)

月	研修内容
4	各部署レクチャー実施(部長、事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保険衛生部会長レク)。女性職員は旭班・マスキ班以外はレクチャー3回実施。男性支援員はさをり班以外3回レクチャー実施。“基礎体力をつける”のデータを渡した。
5	“基礎体力をつける”のレポートを提出。
6~3	保護者通信「あかりっこ」作成(新任支援員で持ちまわり)
8	期末レポート(自分の課題と質問)
6~2	課題レポート
10	青山先生のDVDを見る。レポート作成。
12	期末レポート(自分の課題と質問)
2	相談日実施
3	新任研修終了レポート(学んだこと、これからの意気込み)

### 3 保健衛生関係研修(主なもの)

月	研修内容	研修地
3	AED操作講習と心肺蘇生法研修(医務・看護師)	あかりの家

### 4 運営・管理・経営・事務的な研修(主なもの)

月	研修内容	研修地
5・12	安全運転管理者講習会	姫路
9	県経営協・会計実務担当者研修(税務編)	神戸
2	県経営協・会計実務担当者研修(予算・決算編)	神戸
3	社会福祉法人研修会	神戸

### 5 自己啓発研修

研修会等参加2件、図書購入4件、『さぼーと』購入補助7人

## VIII 地域交流

### 1 ボランティア

- (1) 音楽クラブ指導(永江先生) 月1回 帰省日でない土曜または日曜日
- (2) 華道クラブ指導(松尾先生) 月2回 土曜日午前
- (3) アートクラブ(阿部先生) 月1回 木曜日午後
- (4) あかり喫茶(秋桜会 5人程度) 第3又は第4金曜日午後、月1回利用者用の喫茶店実施
- (5) さをり織り製品化ボランティア(あかりの家保護者、元利用者の保護者、ショートステイ利用者の保護者) ※上記(1)~(5)すべて、新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止

### 2 地域交流ホームの開放、地域行事への参加等

- (1) 地域障害児者の和太鼓練習(月2回)
- (2) その他 ⇒ 新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止

### 3 広報

#### (1) ホームページ

新HP(3代目)2013年7月18日にアップ。新HP開設後、カウンター数の追跡が出来ていなかったが、2015年5月18日(月)に内部カウンター設置。

2017年2月28日(火)にスマートフォンで見れるようにサイトを変更。また、同時に記事の更新方法をWordプレス形式に変更し、更新作業を簡易化した。

近年、職員募集に果たすHPの役割が、ますます重要になっている。

今年度、ホームページの更新について検討したが、引き続き課題として残っている。

#### (2) 発刊物等

	発行月	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.388～ No.398	毎月	各 100 部 延 1,000 部	保護者、法人役員・評議員、後援会 役員、採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」No.32	8月 (年1回)	600部	法人利用者保護者・職員、後援会 員、地域関係施設・全自者協施設・ 関係機関等

(3) 展示・出展

展示、販売（「P.6 **IV**「作業の概況」の「3 福祉バザー、作業製品展示・販売等」参照）

4 あかりの家施設見学受入・・・9件22人（内、県外 1件4人）

PTA・保護者		福祉事業所 関係		教育・保育 関係		行政・議員 関係		地域関係者		当事者	
件	人	件	人	件	人	件	人	件	人	件	人
2	2	5	16			2	4				

**IX** 地域支援

1 障害児等療育支援事業

(1) 兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療 育等支 援事業	15	40	自閉症	14	33	重度	13	26
			知的障害	0	0	中度	1	7
			重症心身	0	0	軽度		
			身体障害	0	0	その他	1	7
			その他	1	7			
施設支 援指 導事 業	8	53	生活介護・就B他	4	17	施設支援 指導事業	8	53
			地域活動支援センター	1	3			
			学校・保育園	3	33			
合計	23	93	合計	23	93	合計	23	93

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	23	93	療育相談	93
その他県内	0	0	療育援助	0
			その他	0

(2) 姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療 育等支 援事業	5	3	自閉症	5	22	重度	5	22
			知的障害	0	0	中度	0	0
外来療 育等支 援事業	8	19	重症心身	0	0	軽度	0	0
			その他	0	0	その他	0	0
施設支 援事 業	8	43	生活介護・就B他	8	43	施設支援 事業	8	43
			グループホーム	0	0			
			学校・保育園	0	0			
合計	13	65	合計	13	65	合計	13	65

2 短期入所（介護給付） 30人 延 892日

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	13	65	療育相談	62
			療育援助	2
			その他	1
合計	13	65	合計	65

利用形態		障害種別			男女・児者		市町					
形態	日	種別	人	日		人	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	892	自閉	28	862	男	25	高砂	2	64	神戸	2	26
私的契約	0		93%	97%	女	5	加古川	13	298	尼崎	0	0
		知的	2	30			播磨町	0	0	宍粟	0	0
			7%	3%	児	0	稲美町	1	20	赤穂	1	2
		難病	0	0	者	30	明石	0	0	神河町	0	0
			0%	0%			姫路	9	118	県外	2	364
計	892	計	30	892	計	30				計	30	892

3 日中一時支援事業(地域生活支援事業) 28人、延206日

利用形態	日	種別	人	日	男女、児者	人		人	日
地域生活支援	206	自閉	26	202	男	24	高砂	4	44
			93%	98%	女	4	加古川	15	80
私的契約	0	知的	2	4			明石	0	0
			7%	2%			播磨町	0	0
		その他	0	0	児	3	稲美町	0	0
			0	0%	者	25	姫路	9	82
計	206	計	28	206	計	28	計	28	206

4 被虐待障害者一時保護支援(高砂市と播磨町・稲美町と契約)

実績なし

5 講師、発表、寄稿等 ※( )は法人内別事業所職員

兵庫県	令和4年度強度行動障害支援者養成研修	基礎研修	1月・2月・3月	講師・演習補助
		実践研修		
行動援護従業者養成研修(NPO法人ぱれっと主催;神戸市)			10月	講師

6 関係団体等への役員や職員派遣等 ※( )は法人内別事業所職員

全日本自閉症支援者協会		理事	19.7~	
兵庫県自閉症協会		役員	20.4~	
神戸市自閉症協会		顧問	20.4~	
播磨地区 職員代表者会		スポーツ委員	22.4~	
播磨町	播磨町障害者福祉施策推進協議会	委員	20.4~	
	播磨町地域自立支援協議会推進会議	委員	20.4~	
稲美町	地域自立支援協議会	委員	20.4~	
高砂市	自立支援給付等審査会		審査委員	20.4~
	地域自立支援協議会	全体会	構成員	20.4~
		運営会議	委員	20.4~
		くらし部会	委員	19.4~
		こども部会	委員	14.4~
		障害福祉計画進捗評価会議	構成員	
高砂児童学園運営懇話会		委員	'19.11~	

社会福祉法人 トリトン	評議員	16.3～
社会福祉法人 常寿会	評議員	17.4～

7 強度行動障害地域生活支援事業(県単事業:あかりの家指名委託) 2019年10月～

緊急に支援の必要が認められる在宅の強度行動障害者を、短期から中期間集中支援し、再度地域生活に戻る仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的とした事業

【事業実績】

- ①対象者の受け入れ ・人数:2人(男性)、・延べ日数:212日
- ②通所施設等の支援者研修受け入れ・直接支援 1事業所2人・延べ日数:36日
- ③その他 関係事業所や保護者への支援、見学受け入れ

【集中支援協議会】

- ①第1回:(開催日)7月21日、(場所)兵庫県民会館、(出席委員)7名
- ②第2回:(開催日)11月14日、(場所)兵庫県民会館、(出席委員)6名

8 実習受入(見学は前章の5参照)

- (1)発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(コロナ感染防止の為、中止)
- (2)学生、施設職員、学校先生等・・・件、人、延日

社会福祉支援実習(社会福祉士受験資格)	3件	4人	延70日
保育実習	1件	1人	延12日
介護等体験(教職員免許必修実習)	0件	0人	延0日
現任訓練(特別支援学校先生、事業所支援員など)	0件	0人	延0日
インターンシップ受け入れ	0件	0人	延0日

9 福祉避難所・・・高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.2).11)

**X** 個別支援計画・苦情解決

1 個別支援計画

前期と後期の年2回作成。(保護者との懇談はコロナウイルス感染拡大を受けて中止)  
2020年度より、期間を1期を3/1～8/31、2期を9/1～2/29としている。

2 サービス苦情解決(障害者支援施設、短期入所事業)

苦情受付担当者	尾崎 勇一 (サービス管理責任者)
苦情解決責任者	坊垣 勝彦 (あかりの家施設長)
第三者委員	川本 知代子 (あかりの家 評議員) 高尾 剛一 (元高砂市福祉部次長、あかりの家前監事)

期末休み明けに「休み中の生活の様子」を聞き取る。その際「あかりの家への要望」等の項目を設定し、聞き取っている。今年度、2件「あかりの家への要望」等を取り上げた。

<受付事例>

- 支援に関する内容(生活支援に関すること・長期休みの短縮希望など)
- 外部からは、コロナ禍による短期入所・日中一時事業の受け入れ中止に対しての要望など

**XI** 虐待・防災・安全・衛生

1 虐待防止

- (1)2022年7月、虐待防止セルフチェック実施予定だったが、新型コロナクラスター発生のため、未実施。その後、11月にセルフチェックを実施。チェックと併せて、アンガーマネジメントに関する設問を設け、「怒りが生じやすい場面の検証を行った。

また、係の一人に、兵庫県アンガーマネージメント研修を受講してもらい、あかりの家内部研修で、研修で学んだ内容を報告してもらった。自分たちで怒りのコントロールについて意見を出しあうような時間を12月に設定。議論を行った。次年度、外部から講師を招いて、アンガーマネージメント研修を実施したい。

その他、法人の動きとして、虐待防止マネージャー会議が通年で開始され、法人として虐待防止に関するマニュアル作りを実施して、各事業所への周知を行っている。

(2)各期末全体会で、虐待防止委員から問題提起と検討会議実施。「身体拘束記録」での記録と報告。「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」として、尿カテーテル使用者1人に3か月ごと作成、保護者に提示説明。

(3)ARS再検討委員会の設置

これまで作り上げてきた「あかり療育スタンダード」に息を吹きかけ、自分たちの財産として残していく為、①共通確認②知識最低基準③療育検討④虐待防止⑤キーワードをARS5本の柱とした。

## 2 防災

(1)防災訓練

①避難訓練

11/5消火訓練、12/7避難・通報・消火訓練、3/18避難・通報訓練(夜間想定)

※今年度も高砂消防本部を要請しての避難訓練はなし(新型コロナウイルス感染予防の為)。

②新任レクチャー(4月に実施)

火災時の対応・避難訓練の説明・消火器、散水栓の取り扱い方などを説明

(2)消防自主点検(日常)毎日実施、(定期)年2回程度実施

(3)緊急連絡簿の作成

11月、既存の緊急連絡網に加え、フロア単位で管理する「連絡簿」を作成。緊急時に早急な対応が必要な場合を考慮しフロア職員の連絡先を記入し、施設長、事務局長、部長が確認後、フロアで保管。

(4)業者委託点検等

a 消防用設備等(スプリンクラー設備、非常動力設備、自動火災報知設備、消防機関に通報する火災報知設備、誘導灯及び誘導標識、消火器具) 年1回(3月)点検(コロナウイルス感染のため今期は1回)

b 特殊建築物等定期調査 → 無 c 水洗機、ガス式乾燥機点検 → 無

d 自家用電気工作物(高圧受電設備)保安管理 2019年10月1日から毎月1回点検 → 11/19点検で電灯回路が絶縁不良 業者依頼済み

(5)電気設備の安全調査(加古川地区電気安全調査センター) → 無

(6)LPガス設備保安点検((有)保安センター東播) → 無-

## 3 交通安全

(1)車両管理:担当者により点検

(2)無事故・無違反運動「チャレンジ100」(10/1~1/8)(県全運転管理者部会等共催)に13年連続13回目の参加。3チーム(1チーム10人、計30人参加)編成し、3チームが無事故・無違反を達成し、表彰を受ける。

(3)安全運転管理者等講習会 4/11, 11/14 出席

## 4 衛生

(1)貯水槽清掃 10月1日業者にて実施

(2)合併処理浄化槽関係 ①合併処理浄化槽業者点検 年24回(毎月2回)実施

②(社)兵庫県水質保全センター検査 8/22「おおむね適正」

## XII 総務関係

1 職員構成(あかりの家)('23.3.31現在)

		施設長	副施設長	支援員	看護師	事務員	栄養士	調理員	計
常勤職員	男	1	1	17					19
	女			16	2	4	2	3	27
現員		計	計	計	計	計	計	計	計
		1	1	32	2	4	2	3	46
非常勤				5	1	1			7
計		1	1	37	3	6	2	3	53

## 2 職員年齢構成（'23. 3. 31現在）

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	総計
常勤	男	7	4	5	2	1		19	46
	女	14	7	2	2	2		27	
非常勤			1	2	3	1		7	7
総計		21	12	9	7	4		53	53

※ 常勤職員平均年齢34.1歳、常勤生活支援員平均年齢26.1歳

## 3 資格取得の状況（常勤職員：延人員）

サービス管理責任者(3)、社会福祉士(4)、介護福祉士(2)、介護支援専門員(1)、保育士(6)、知的障害援助専門員(1)、教員(4)、幼稚園(2)、臨床心理士(1)、公認心理師(1)、児童指導員(2)、看護師(3)、管理栄養士(2)、栄養士(2)、調理師(2)、防火管理者(4)、特定社会保険労務士(1)

## 4 求人活動（法人）

### (1) 2023年3月新卒支援員等求人

#### ①インターネット求人サイト「マイナビ」を活用

◇見学説明会参加者：延 22人、採用試験受験者：7人

◇新型コロナウイルス感染防止のため、合同説明会等イベントへの参加は中止した。また、インターンシップや事業所説明会はオンラインで実施した。

◇オンライン説明会での対応にシフトした結果、法人あかりの家に関心のある学生がエントリーをすることとなり、また時間と場所の制約が少ないせいも、前年より多くの学生と出会うことができたが、実際の採用にはあまり繋がらなかった。

#### ②県知協主催就職フェアに参加（7月、神戸）

#### ③社協主催福祉の就職総合フェアに参加（3月、神戸）

## 5 衛生委員会（2016.9.1発足）

委員会：毎月1回開催（年12回実施）

委員：統括管理者（施設長）、産業医、衛生管理者（事務局長）、看護師、支援員（改善委員会担当）

主な議題：時間外労働の実態報告、職員の健康診断、感染症対策、作業環境について等

## 6 主な購入、工事、修繕等

4月	つばみ棟事務所改装工事	2,163千円
6月	北棟プレハブ事務所改装工事	1,924千円
9月	北棟2階204号室空調機取替	198千円
12月	1F女子トイレ改修工事	799千円
2月	食堂 吊り天井エアコン取替え	576千円
3月	流し台取替工事（1Fリビング）	341千円

※ コロナ対策に付随して、利用者の生活環境改善及び職員の業務環境改善のための建物設備の改修等を実施。

# 2022（令和4）年度 児童療育支援センターあかり 事業報告

2023. 3. 31現在

## 1. 事業の体制

児童療育支援センターあかりとして、以下、2つの事業所を運営する。

児童デイサービスふたば（児童発達支援、放課後等デイサービス） 定員10名

児童デイサービスつぼみ（放課後等デイサービス、保育所等訪問支援） 定員10名

## 2. 事業の状況

### ① 契約状況(令和5年3月30日現在)

	児童発達支援	放課後等デイ	保育所等訪問	合計
児童デイサービスつぼみ		24名	9名	24名
児童デイサービスふたば	26名	20名		46名
児童療育支援センターあかり	26名	44名	9名（児発重複）	70名

保育所等訪問支援利用児童は、児童発達支援と併用利用（名）。

つぼみ、ふたば両方契約している児童は、9名（児童発達支援と保育所訪問支援の併用）。

児童療育支援センターあかりとして、契約している児童の総数は、70名

### ② 事業実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
つぼみ	放デイ	83	80	98	84	77	88	85	88	103	66	75	101	1028
	保訪	10	10	12	7	6	11	12	12	12	8	11	11	122
ふたば	児発	85	85	110	81	84	117	103	103	127	98	102	129	1224
	放デイ	69	51	57	53	70	61	52	54	54	53	52	60	686

単純に延べ人数として、(昨年度) 2190名 → (今年度) 2938名

### ③ 研修等

i) 感染症対策研修会：8月実施予定（法人内感染拡大により中止）⇒10月かくたつ研修を視聴

ii) 虐待防止研修会：12月28日

iii) 内部研修：保育所訪問を通じた関係者への指導、助言の在り方について（実地研修として）

iv) 外部研修：兵庫県児童通所支援事業者研修（3月）

兵庫県通学・通園バス安全管理研修（3月）

v) 講師派遣：播磨町就学サポート会議『放課後等デイサービスの現状について』（2月）

兵庫県強度行動障害支援者養成研修（1月、3月）

## 3. 年度総括

4月に児童デイサービスつぼみを開設。2事業所を一体的に運営する児童療育支援センターあかりとして、再始動した。運営の立場からは困難で、複雑な方法ではあったが、利用児童の支援の精度を上げるために、全支援者が2事業所を兼務した体制をとることにした。支援者は一定の療育的知識と技術を有するが、個々に得意不得意、長所短所を持っており、それらをお互いに補完しつつ、また、対象となり児童との相性や利用目的に対する支援が最大限行えるマッチングを行いながら、支援者の配置に工夫をした。職員には大きな負担となったと思われるが、それぞれがやりがいと責任を感じながら活躍してくれる組織になった。

利用児童数は、昨年度と比べると約1.4倍に増えた。また、利用する児童についても、毎年のことな

がら、障害の重たさや障害種別、利用の目的が幅広くなっており、良質な支援を行おうとすると、誰でもできるような仕事にはなっていないのが現状であり、それぞれの職員が日々悩み、考え、自らをバージョンアップしないといけない状況となっている。

関係機関との連携、役割分担を進めることが、今年度もうまくいかなかったように振り返る。点のよくなつながりは支援会議の増加ということを見ると増えてはいるが、安定感のある連携が確立しているとは言えない。根本的な視点の違いによって連携の進み具合が違ってくるようで、今を見ているか、将来を見ているかというところであろうかと推測する。そこにある事情は、それぞれの組織が持つ価値観や責任なども含むため、簡単には変化は起こらないものと思う。地道に関係を個人レベルで繋ぎながら、連携を模索するというのを続けていく必要があり、同時に、市単位で連携に関する前向きな議論が行われるように働きかけていくこともしないといけない。



# 2022（令和4）年度 多機能型事業所 ワークホーム高砂 事業報告

2023. 3. 31現在

## 《Ⅰ 沿革》

- 2003（平成15）年 4月 1日 知的障害者通所授産施設ワークホーム高砂 開設
- 2012（平成24）年 1月 1日 多機能型事業所（生活介護、就労継続B型）に移行
- 2020（令和 2）年10月19日 納豆工房なっところちゃん（従たる事業所）開設
- 2021（令和 3）年12月31日 納豆工房なっところちゃん（従たる事業所）廃止
- 2022（令和 4）年 1月 1日 生活介護事業所 納豆工房なっところちゃん 開設
- 2022（令和 4）年10月 1日 就労継続支援B型事業所 納豆工房なっところちゃん 開設

## 《Ⅱ 利用者状況》

### 1 定員と契約者数 （単位：人）

事業種別	定 員	契約者数
生活介護事業	12	11
就労継続B型事業	28	25
合計	40	36

### 2 市町別契約者数 （単位：人）

市町名	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	4	15	19
加古川市	3	3	6
播磨町	0	3	3
小野市	1	0	1
姫路市	3	4	7
合計	11	25	36

### 3 利用者年齢構成

#### (1) 生活介護事業 （単位：人）

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59		
男性	0	2	2	0	1	1	1	1	2	10	
女性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	1	2	2	0	1	1	1	1	2	11	

	男性	女性
最少年齢	21歳11か月	19歳9か月
最高年齢	59歳0か月	19歳9か月
平均年齢	39歳4か月	19歳9か月
男女平均年齢	37歳6か月	

## (2) 就労継続B型事業

(単位:人)

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	～54	～59		
男性	2	1	1	7	4	3	2	0	0	20	
女性	1	1	0	0	0	2	1	0	0	5	
合計	3	2	1	7	4	5	3	0	0	25	

	男性	女性
最少年齢	18歳0か月	18歳0か月
最高年齢	49歳2か月	47歳3か月
平均年齢	34歳1か月	34歳8か月
男女平均年齢	34歳2か月	

## 4 利用者月別実人員・延べ人数

## (1) 生活介護事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	131
延人員	200	213	221	215	214	211	213	209	222	205	203	228	2,554

## (2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	27	26	26	26	26	26	23	23	23	23	23	25	297
延人員	530	507	525	542	549	534	473	459	478	474	443	534	6,048

## 5 入退所・変更契約の状況(年間)

(1) 生活介護事業・・・サービス変更・入所(新規含む) 1名

サービス変更・退所 0名

(2) 就労継続B型事業・・・サービス変更・入所(新規含む) 3名

サービス変更・退所 5名

※「納豆工房なっところちゃん」へ移動した利用者 4名

## 6 障害支援区分

## (1) 生活介護事業

(単位:人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	0	2	2	4
加古川市	0	1	2	0	3
播磨町	0	0	0	0	0
姫路市	0	1	0	2	3
小野市	0	0	1	0	1
合計	0	2	5	4	11

## (2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	10	1	1	3	1	0	0	16
加古川市	0	0	1	0	2	0	0	3
播磨町	0	0	1	1	1	0	0	3
姫路市	2	0	0	1	0	0	0	3
小野市	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	1	3	5	4	0	0	25

## 7 知的障害の程度(「障害者(療育)手帳」の判定による)

(単位:人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	11	14	4	1	30
女性	1	4	0	1	6
計	12	18	4	2	36
比率	33%	50%	11%	1%	100%

## 8 自閉症または自閉的傾向を有する者(入所時の諸書類を基に集計)

区分	男性	女性	計
人員	13人/31人	2人/5人	15人/36人
比率	41.9%	40.0%	41.7%

## 9 その他の障害、てんかん

(単位:人)

区分	男性	女性	小計	合計
身体	肢体不自由	0	0	1
	難聴	1(1種2級)	0	
精神科薬	てんかん	6	0	6
延べ人数		7	0	7

## 10 利用者の通所方法

(単位:人)

	徒歩	自転車	バス	JR	バスとJR	山陽電車	付き添い通所
男性	7	7	0	0	0	1	14
女性	1	2	0	0	0	2	1
計	8	9	0	0	0	3	15

## 《Ⅲ 生活支援》

## 1 一日のスケジュール(日課の基本)

時間	内容
8:50	来所、朝の会
9:00	作業開始
(10:00)	送迎者作業開始
10:40	午前休息
10:50	作業再開
11:30	昼休憩(前半グループ 昼食、歯磨き等)
12:30	前半グループ 作業開始 昼休憩(後半グループ 昼食、歯磨き等)

13:30	後半グループ 作業開始
15:00	午後休息（夏季はスポーツドリンク） 送迎者作業終了
15:15	作業再開
16:50	作業終了、終わりの会
17:00	帰宅

## 2 昼休憩等の過ごし方

日課の中心が「作業」であることから、休憩は「多目的室（食堂兼休憩室）」など各自の好みの場所で過ごすことを基本とした。また、体重増加や生活習慣病が気になる利用者等については、事業所周辺を散歩するなどの対応を行った。自閉症の方については、落ち着ける環境を整える必要性から、多目的室に固定の席を設けるなどの工夫を行った。

## 3 新型コロナ対策等

新型コロナウイルス感染対策として、休憩時間を2回に分け密集を避けることや、常時窓を開けての換気、空気清浄機やオゾン発生機の設置、また、机にパーテーションを設置するなどの対策を昨年度に引き続き行った。

## 4 水分補給について

夏場の熱中症対策（5月～10月）として、年間通しての「麦茶」提供に加えて毎日500mlのスポーツ飲料（保護者会からの提供）を全利用者と職員に提供した。また、利用者の水分摂取量を把握しやすくするため、500mlのウォーターボトルを全ての利用者に提供した。

## 5 作業以外の活動（クラブ活動・サークル活動など）

新型コロナに対する感染対策として各種行事を中止したほか、事業所の5日稼働の試行開始により、昨年度まで毎週水曜日（15:00～16:30）に設定していた余暇活動時間の設定そのものが本年度は難しくなった。今後は、作業以外の活動をいつ設定するかが課題となっている。

### （1）料理クラブ

新型コロナウイルスの影響で中止

### （2）余暇活動など

週5日稼働試行に伴う余暇時間設定の困難さに加え、新型コロナウイルスの影響で中止

### （3）一泊旅行

新型コロナウイルスの影響で中止

### （4）のじぎくスポーツ大会

利用者1人が1500m走に出場し、金メダルを獲得した。

### （5）ばんたん親善運動会

新型コロナウイルス感染拡大により中止

### （6）ばんたんゆうあい文化祭

新型コロナウイルス感染拡大により中止

### （7）1年を振り返る会

3月24日に職員が制作した「1年を振り返るDVD」を配布した。

### （8）実施した主な行事

5月・・・保護者会総会と職員顔合わせ会

- 8月・・・事業所説明会（特別支援学校生と保護者向け）
- 12月・・・クリスマス会（保護者会から弁当とプレゼントを提供していただく）
- 3月・・・事業所説明会（特別支援学校生と保護者向け）

### 《Ⅲ 支援の基本と作業支援》

#### 1 ワークホーム高砂の利用者支援と作業支援の基本

- (1) 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行った。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに添った関わりを大切にした。
- (2) 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者と連携しながら取り組んだ。グループホームの利用者や一人での通院が困難な利用者については、通院付き添いや投薬、血圧・体重などの管理を行うとともに、保護者や本人の要望を受け歯科受診などの付き添いも積極的に行った。
- (3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・施設長（サービス管理責任者）・担当支援員が同席して年2回実施した。
- (4) 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱に据えた充実した暮らしづくりの応援を積極的に行った。
- (5) 作業支援の基本は、就労継続B型事業所だけではなく生活介護事業所においても、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切にする」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、「就労移行支援事業所」や「A型事業所」「一般就労」へのステップアップを目指した。
- (6) 自立通勤が困難な利用者については、本年度から積極的に送迎サービスを開始し、加古川方面まで送迎範囲を広げた。

#### 2 作業内容

##### (1) クリーニング作業

「納豆工房なっところちゃん」の完全独立に伴い、作業はクリーニング作業のみとなった。

##### (2) その他作業

- ①ウエスの販売
- ②楠公園清掃作業

#### 3 クリーニング作業の主な取り組み経過

- (1) 設立当初から「シーツ班」「たたみ班」「仕分け班」「タオル班」の4つに班分けを行い、利用者支援を実施してきたが、平成29年度からは、作業班にこだわらない横断的な作業方法を取り入れ、利用者が様々な作業に挑戦できるような環境を整えるなど丁寧な支援に努めてきた。その結果、利用者のできる作業が増え、作業効率も大幅に向上した。
- (2) 2020年度は、新型コロナ対策として「仕分け班」を完全に撤廃し、利用者、職員の分散が無くなり、効率的な作業環境を整えた。10月には「納豆工房なっところちゃん」がオープンし、作業人員が大幅に減ったが、作業班にこだわらない横断的な作業方法が身についていたことから大きな混乱もなく作業を行うことができた。
- (3) 2021年度においても利用者の作業リーダー制、休憩の交代制について継続して取り組み、利用者の自主性を伸ばすことができた。また、2020年度から試行していた「洗濯後の仕分け作業」を継続して行い、利用者の作業を衛生区域のみで行うことができた。
- (5) 2021年1月1日からは納豆工房なっところちゃんが生活介護事業所として独立したため、7名

の利用者が納豆工房へ異動した。

- (6) 2022年度は「納豆工房なっところちゃん」が10月に就労継続B型事業所を立ち上げたことから、当事業所から4名の利用者が異動した。

運営面では、週5日稼働の試行により効率的な運営が可能となり、日々の作業に携わる職員や利用者数が集中化し作業効率が上がるとともに、支援の幅を広げることが可能となった。そのため、作業場のレイアウトを大きく変更し、利用者の個別対応を積極的に取り入れた。また、協力企業が中心となりシーツロールのオーバーホールを行い作業の効率化を図った。

#### 4 クリーニング作業における協力企業との関係

##### (1) クリーニング事業の協力企業・・・株式会社ゴトウ・アズ・プランニング

設立時は、株式会社MAO（オノエクリーニング51%、ゴトウ・アズ・プランニング49%出資の合弁会社）が協力企業であったが、2010（平成22）年にゴトウ・アズ・プランニングがオノエクリーニングの出資分を買い取り、協力会社はMAOからゴトウ・アズ・プランニングに変更となった。

##### (2) ゴトウ・アズ・プランニングとの話し合いについて

2022年度は前年度に引き続き、安杖社長（ゴトウ・アズ・プランニング）、岡本執行取締役、齋藤施設長、長谷川施設長、楠課長補佐により現状の共有化とワークホーム高砂クリーニング工場理念づくりに向けた「経営会議」を計8回開催し、理事長等の意見もいただきながら12月に「ワークホーム高砂クリーニング工場理念」を決定した。

また、2020年度から実施している現場レベルの調整を行う「運営会議」については、2023年度からの週5日稼働の本格実施に向けて作業工程や運営の変更について調整を図った。

なお、「経営会議」については昨年同様、新型コロナウイルス対策の為にリモート会議を導入した。

##### 《ワークホーム高砂クリーニング工場理念》

1. ワークホーム高砂クリーニング工場は、生産量を維持し、お客様に良い品質の商品を安定的に供給します。
2. ワークホーム高砂クリーニング工場は、障害を有する人たちが生き生きと働ける工場をめざします。
3. ワークホーム高砂クリーニング工場は、安全第一の工場運営に努め、助け合いと成長が実感できる職場環境づくりに努めます。

（2022年12月4日）

##### 《経営会議開催日》

第1回	2022年	4月	21日	第2回	2022年	6月	22日
第3回	2022年	7月	15日	第4回	2022年	9月	13日
第5回	2022年	10月	18日	第6回	2022年	12月	2日
第7回	2023年	1月	31日	第8回	2023年	3月	7日

##### 《運営会議開催日》

第1回	2022年	4月	18日	第2回	2022年	5月	9日
第3回	2022年	6月	14日	第4回	2022年	7月	12日
第5回	2022年	8月	17日	第6回	2022年	9月	21日
第7回	2022年	10月	19日	第8回	2022年	11月	14日

第 9回	2022年	12月	15日	第10回	2023年	1月	17日
第11回	2023年	2月	3日	第12回	2023年	2月	10日
第13回	2023年	2月	18日	第14回	2023年	3月	11日
第15回	2023年	3月	24日	第16回	2023年	3月	31日

## 5 クリーニング作業環境の改善（継続的取り組み）

- (1) 2013（平成25）年度から暑さ対策としての作業環境改善に取り組み、ルーファンの設置（2カ所）、排煙窓の新設工事（東西北面）を実施した。
- (2) 2014（平成26）年度は、シーツロール機の北側面に窓を新設し空気の入れ換えができる環境整備を実施した。
- (3) 2015（平成27）年度は、工場周辺のセメント舗装を実施し清掃がしやすい環境を整えたほか、工場内の安全通路の確保や立ち入り禁止区域の設定等、安全確保に重点を置いた環境整備を行った。
- (4) 2016（平成28）年度は、9月に駐車場を新たに新設し、仕分け班専用の更衣室を設置、施設内の電灯のLED化を完了、シーツ班投入機北側上部の窓を新たに増設、西側窓に遮光フィルムを貼る工事を行った。また、北側「松本商会」との賃貸契約を3月末で解消した。
- (5) 2017（平成29）年度は、工場清掃の効率化を目的に1階南側に引き戸の大型出入口を設けたほか、採光と風通しを目的に工場内汚染区域に大型サッシ2基を設置した。また、医療関連サービスマーク認定に備えて洗濯場と仕上げ場の境界にビニールカーテンを設けるとともに、大型洗濯機の横と準汚染区域内消毒保管庫の横に手洗い場を設置するなど衛生環境の整備を実施した。
- (6) 2018（平成30）年度は、仕分け班の作業服をつなぎ服に変更するなど感染症対策を積極的に行った。また、仕分け班作業場に固定式の扇風機を設置し、作業環境の改善を図った。
- (7) 2019（令和1）年度は、5S活動の一環として作業後の作業場清掃を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策の一環として仕分け作業を廃止する方向でGOTOと協議し、3月に試行し次年度からの本格実施に備えた。このことはワークホームの歴史にとっては画期的なことであり、利用者全員が衛生区域で作業することになるとともに、仕分け作業の重労働からも解放されることとなった。
- (8) 2020（令和2）年度は、コロナ対策を徹底し、汚染区域、準汚染区域、清潔区域を分け玄関を変更した。その際、防寒対策のためアコーディオンカーテンを設置し、冬場の作業場温度を確保した。また、駐車場の安全対策の一環として、フェンス沿いに人工芝を設置した。
- (9) 2021（令和3年）度はこれまで週6日稼働している工場運営を週5日稼働に変更することにより、1日当たりの利用者数と職員数を確保し支援環境の改善を図るための準備を進め、令和4年度から試行導入をすることを決めた。
- (10) 2022（令和4）年度は、週5日稼働の試行を実施し、利用者全員が公休日となる土曜に職員が工場の清掃や機械メンテナンスを行う日を設定した。  
経年劣化が進んでいた工場のクーラーについては、ガスヒーポン方式から電気方式に更新するとともに、吹き出し口（ダクト）の増設も行い利用者一人一人にスポットクーラーの風が当たるよう改善を行った。  
女性利用者の排泄支援を効率化するため、1階女子トイレ内を改修整備して汚物処理槽を設置した。

## 6 医療関連サービスマーク認定更新について

病院寝具を専門に洗濯するために必要な「医療関連サービスマーク」については、ワークホーム高砂開設時の平成15年度に初めて認定を受け、以降3年に一度の頻度で更新している。2022年度には更新のための事務はなかった。(次回更新日：令和6年1月31日)

## 7 その他作業(「ウエス販売」「楠公園の清掃受託)」について

○クリーニングの廃棄タオルをウエスとして定期的に販売した。

○高砂市からの委託により希望山荘東側の「楠公園」の草刈り等の清掃を実施した。

## 8 作業収入と工賃支給

(単位:円)

	事 項	令和4年度	備 考
収入	洗濯事業収入	19,707,610	ゴトウ・アズ・プランニング委託料
	公園清掃収入	62,500	高砂市からの委託料(楠公園清掃)
	計	19,770,110	
支出	工賃支給額	16,806,760	
	作業経費	2,064,848	作業員人件費
	消費税	898,502	
	計	19,770,110	
	収支差額	0	

## 9 利用者工賃の考え方と「業績賞与」について

(1) 工賃については、「ワークホーム高砂工賃支給要領」に基づき支給した。基本的な考え方としては、事業にともなう純利益を工賃財源とし、年2回(4月、10月)の工賃見直し評価を行い、各自の作業能力を評価したうえで時間給に換算し、働いた時間数を掛け合わせて工賃を決める方法を採用した。

(2) 2016(平成28)年度後期から始まった「業績賞与」については、2022年度においてもゴトウ・アズ・プランニング社から1,082,229円の支給が別途あった。

(3) 工賃については、毎月第2水曜日に支給し、一時金については、8月、12月、4月に支給した。

### (4) 工賃支払い実績

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	夏季一時	8月	9月
生活介護	204,100	202,020	211,610	203,710	110,000	197,150	207,680
就労B	955,370	929,100	982,450	973,990	740,000	1,010,690	980,160
計	1,159,470	1,131,120	1,194,060	1,177,700	850,000	1,207,840	1,187,840

	10月	11月	12月	冬季一時	1月	2月	3月	春季一時
	210,520	196,270	200,320	230,000	187,450	190,240	220,660	135,000
	883,230	840,530	823,150	900,000	812,550	809,430	948,380	1,311,000
	1,093,750	1,036,800	1,023,470	1,130,000	1,000,000	999,670	1,169,040	1,446,000

	年間工賃 計	平均工賃月額
生活介護(延べ人数:126)	2,906,730	23,032
就労B(延べ人数:297)	13,900,030	47,226
計	16,806,760	



## 《Ⅳ 健康管理・栄養管理などの支援》

### 1 健康管理及び保健衛生等

#### (1) 保健衛生会議の開催

「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、感染症予防、作業環境管理・改善に努めた。

#### (2) 定期的な健康診断と体重測定

定期健康診断については、7月（利用者と職員に空腹時検査の協力をお願いした）と1月（職員のみ）に実施し、結果については、井野嘱託医師に報告し指導を受けた。また、医師の意見も添えて、その結果を各家庭に配布し、本人と保護者に説明するように努めた。

「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。

#### (3) 作業環境の把握

作業場に温度湿度計を設置し作業環境の把握に努めた。特に夏場は、休憩（30分に1回）や水分補給を頻繁に行うなど、熱中症対策を重点的に行った。水分補給については、各利用者に水筒（平成28年度から導入し、当初は保護者会から支給、前年度からは事業所にて配布）1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握・管理した。また、作業場の気温が30℃を超える5月～10月にかけてスポーツ飲料（ペットボトル1本500ml）を配付し熱中症対策を行った。

#### (4) 感染症対策

- 新型コロナウイルスなどの感染症対策全般については、月に一度の「感染症基本研修」を看護師を講師として実施し職員の知識と技術を高めるように努めた。また、①検温の実施 ②アルコールによる手指消毒の徹底 ③マスクの正しい装着支援 ④次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ等の拭き取り ⑤多目的室機のパーテーションの導入 ⑥食事場面での非対面方式の導入 ⑦毎日の十分な換気⑧「3密（密閉、密集、密接）」の回避などの対策を積極的に行った。
- 作業終了時や食事前、トイレ使用後などについては、手洗いの励行とアルコールによる手指消毒を徹底するよう呼びかけるなど、利用者と職員の感染症予防に対する意識向上に努めた。
- 洗濯作業においては、汚染物も取り扱うためゴトウ・アズ・プランニングの職員を含めた全職員を対象に、感染症の基礎と疥癬、MRSA、ノロウイルスの勉強会を行い、感染症に対する知識を深めるとともに感染症予防への意識を高めた。

#### (5) 加古川歯科保健センターとの連携

加古川歯科保健センターから派遣される歯科衛生士による歯磨き指導を利用者全員が受け、その結果を家庭に知らせ、必要な人については歯科治療をお願いした。また歯科衛生士による歯磨き指導を契機として、昼食後の歯磨きへの関心を高めることに努めた。本年度についても特に口腔内の汚れが多かった利用者については、職員が付き添い歯磨きを徹底的に行った。

#### (6) 生活習慣病の予防

健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。また、受診に関して保護者の協力が得られにくい利用者については、職員が通院の支援を行った。

グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の

支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などに対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などに関しては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達するよう努めた。

#### (7) グループホーム利用者への支援

グループホーム所属の看護師が、可能な限り朝と夕にホーム内にて利用者の健康観察（入浴時は全身観察）を行い異常の早期発見に努めた。

## 2 栄養・給食について

### (1) 給食委員会の開催

利用者の昼食の充実と安心・安全な食事提供を目的として、業者（有限会社ひでかつ給食）と連携して給食提供を行った。また、給食委員会を3回（6/8、11/9、2/15）開催するとともに、現場見学を行うなど、より良い給食の提供に努めた。

### (2) 新型コロナウイルス感染症対策

本年度についても新型コロナウイルスの感染対策を図る観点から、施設での盛り付けが必要な「お楽しみメニュー」を中止し、お弁当の形でのお楽しみメニューを提供した。また、昨年度に引き続き、納豆工房が製造する納豆「なっとこちゃん」を提供した。

## 《V 人権擁護、虐待防止の取り組み》

### 1 虐待防止の取り組み

虐待防止については、2021年8月に「法人虐待防止委員会」が設置され、2022年6月からは「虐待防止マネージャー連絡会」が設置された。当事業所は、昨年度までの「虐待防止・人権擁護委員会」に代わり「虐待防止対策委員会」を法人統一の委員会として設置し、研修会やチェックリストを定期的に行うなど、利用者の人権擁護と現場における虐待防止に努めた。

### 2 本年度の研修内容

「障害者虐待防止法」を学ぶとともに、職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援を振り返ることが虐待の未然防止には必要であることから、行政が推進するチェックリストによるセルフチェックを行い日頃の利用者や職員との関わりを振り返り、虐待防止についての意識を再確認した。

## 《VI 防災への対応》

- 1 危険物管理 地下タンク及び地下埋設配管について毎週点検し、記録に残した。（消防署の指導にもとづき毎月曜日点検実施）
- 2 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 3 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 4 セキュリティー ワークホーム高砂と納豆工房なっとこちゃんの敷地内に防犯カメラを4箇所ずつ設置し、セキュリティーシステムを稼働させ建物内の防犯に努めた。
- 5 防災訓練 1月避難訓練、通報訓練を実施 3月避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。

《Ⅶ 職員研修（施設外研修）・会議等（主なもの）》

月	研 修 名	場 所	参加数
8	播淡地区施設長・職員合同研究会	オンライン	2名
10	兵庫県知的障害者施設協会播淡地区職員研修	オンライン	1名
12	近畿地区知的障害関係施設長等会議	京都	1名
1	第10回障害者支援施設部会全国大会近畿地区大阪大会	大阪	1名
2	のじぎくスポーツ大会参加申し込み説明会	神戸	1名
3	2022年度強度行動障害スーパーバイザー養成講座における実践報告会	神戸	1名

《Ⅷ 資格取得等》

資 格 名 称	取 得 者 数
クリーニング師	2名

《Ⅸ 施設サービス評価、苦情解決》

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

保護者懇談会において、利用者や保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、毎月の保護者会役員会や保護者会行事に施設長が参加し、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、利用者からの意見を聞くように努めた。

《Ⅹ 地域支援、地域啓発活動など》

1 見学・実習の受け入れ等

事 項	内 容
特別支援学校保護者等 説明会	8月11日、3月21日、3月30日 特別支援学校の保護者や事業所職員を対とした利用者獲得のための説明会 (延べ29名)
施設見学	10月13日 いなみの特別支援学校(31名) 11月9日 東はりま特別支援学校(51名)
特別支援学校実習	5月31日～6月3日 東はりま特別支援学校(2名) 6月20日～6月24日 県立いなみ野特別支援学校(1名) 10月3日～10月7日 東はりま特別支援学校(2名)
学生社会福祉実習	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため実施なし

## 2 講師派遣

- ① 10月2日 NPO法人パレットが主催する「行動援護従事者講習会」の講師として施設長が講義した。
- ② その他、予定されていた研修会は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

## 3 機関紙の発行

「月刊ワークホームだより」を毎月発行し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。

## 4 ホームページの更新

ワークホーム高砂のホームページは、平成27年度に県立総合リハセンター内の重度障害者在宅就労者の会 e-work に作成を依頼し、「月刊ワークホームだより」の発刊の都度、掲載更新した。メンテナンスについても再契約している。

## 《XI 保護者会活動》

	日 程	会議・行事等	内 容	参加数
5月	5月22日(日)	・保護者会総会 ・職員紹介 ・第1回役員会	・書面決議	34名 9名
6月	6月12日(日)	・第2回役員会	・今後の行事について	8名
7月	7月3日(日)	・保護者研修会 ・第3回役員会	・坊垣あかりの家施設長の講義 ・今後の行事の実施可否について	19名 10名
8月	8月7日(日)	・第4回役員会	・今年度行事について	8名
9月	9月11日(日)	・第5回役員会	・今後の行事について	9名
10月	10月23日(日)	・第6回役員会	・クリスマス会について	8名
12月	12月4日(日) 12月20日(火) 12月24日(土)	・第7回役員会 納豆工房クリスマス会 WHクリスマス会	・クリスマス会について・保護者会として昼食とプレゼントを支援	8名
1月	1月22日(日)	・第8回役員会	・1年を振り返る会について	7名
3月	3月5日(日) 3月19日(日)	・第9回役員会 ・第10回役員会	・次年度役員について ・次年度総会に向けた準備	7名 7名
4月	4月9日(日)	・第11回役員会	・総会準備	12名

《Ⅱ 総務関係》

1 職員の採用・退職・異動（2022年4月1日～2023年3月31日）

(1) 採用

- ・正規 支援員 3人（2022年 4月 1日付）
- ・パート職員 支援員補助 2人（2022年12月 8日付 他）

(2) 退職

- ・正規職員 支援員 1人（2023年 3月31日付 他）

(3) 異動

- ・あかりの家からワークホーム高砂へ  
正規職員 支援員 2人（2022年 4月 1日付）
- ・ワークホーム高砂から地域支援センターあいあむ基幹相談支援センターへ  
正規職員 支援相談員 1人（2022年 4月 1日付）
- ・納豆工房からワークホーム高砂へ  
パート職員 支援員補助 1人（2022年4月12日付）

2 職員構成（希望山荘日笠、オリーブの家含む 2023. 3. 31現在）

（単位：人）

身分・所属 \ 職種		施設長	医師	支援員	作業支援員	支援員補助	事務員	看護師	計
正規・嘱託職員	男	1		8	1				10
	女			2			1	1	4
	計	1		10	1		1	1	14
補助職員 (パート)	男		(1)			1			1 (1)
	女					8		1	9
	計					9		1	10 (1)
合計		1	(1)	10	1	9	1	2	24 (1)

※ ( ) は嘱託医師 ※ 年度末に退職する職員を含めて記載

3 職員年齢構成（希望山荘日笠、オリーブの家含む）

（2023. 3. 31現在）

（単位：人）

身分・所属 \ 年代	～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代～	計
正規・嘱託職員	6	4	1	1	1	12
補助職員	1	1	1	3	5	11
合計	7	5	2	4	6	24

# 2022（令和4）年度 多機能型事業所 納豆工房なっところちゃん 事業報告

2023. 3. 31現在

## I 沿革

- 2020（令和2）年10月19日 新施設供用開始（ワークホーム高砂の一部門）  
 2022（令和4）年1月1日 生活介護事業所 納豆工房なっところちゃん（定員10名）開設  
 2022（令和4）年10月1日 就労継続支援B型事業所 定員10名開設（多機能型事業所へ）

## II 利用者状況

### 1 定員と契約者数

（単位：人）

事業種別	定員	契約者数
生活介護事業	10	7
就労継続B型	10	5
合計	20	12

### 2 市町別契約者数

（単位：人）

市町名	生活介護事業	就労継続B型	合計
高砂市	5	5	10
加古川市	0	0	0
姫路市	2	0	2
合計	7	5	12

### 3 利用者年齢構成

#### (1) 生活介護事業

（単位：人）

性別	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4	
女性	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	
合計	0	0	0	1	0	1	1	2	0	7	

	男性	女性
最小年齢	37歳 10か月	42歳 0か月
最高年齢	50歳 1か月	53歳 5か月
平均年齢	44歳 11か月	46歳 1か月
男女平均年齢	45歳	5か月

#### (2) 就労継続B型

（単位：人）

性別	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3	
女性	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	
合計	0	1	0	1	0	1	2	0	0	5	

	男性	女性
最小年齢	24歳 0か月	42歳 11か月
最高年齢	46歳 2か月	48歳 10か月
平均年齢	35歳 0か月	45歳 11か月
男女平均年齢	39歳	4か月

4 利用者月別実人員・延人数

(1) 生活介護事業

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
延人員	142	154	154	136	137	151	144	143	128	129	135	155	1708

(2) 就労継続B型

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員							4	4	4	4	5	5	26
延人員							73	79	69	68	87	102	478

5 入退所・変更契約の状況（年間）

- (1) 生活介護事業 . . . . . 入所 7名  
退所 0名
- (2) 就労継続B型 . . . . . 入所 5名  
退所 0名

6 障害程度区分

(1) 生活介護事業

(単位：人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	1	3	1	5
加古川市	0	0	0	0	0
姫路市	0	0	2	0	2
合計	0	1	5	1	7

(2) 就労継続B型

(単位：人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	2	0	2	1	0	0	0	5
加古川市	0	0	0	0	0	0	0	0
姫路市	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	2	1	0	0	0	5

7 知的障害の程度（障害者（療育）手帳」の判定による）

(単位：人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	5	0	1	0	7
女性	5	0	0	0	5
計	10	0	1	0	12
比率	83	0	17	0	100

8 自閉症または自閉的傾向を有する者（入所時の諸書類を元に集計）

	男性	女性	計
人員	1人/7人	2人/5人	3人/12人
比率	14%	40%	25%

9 その他の障害、てんかん

(単位：人)

区分	男性	女性	小計	合計
身体障害	肢体不自由	0	0	0
	難聴	0	0	
精神科薬	てんかん	0	0	0
延べ人数		0	0	0

## 10 利用者の通所方法

(単位：人)

	徒 歩	自 転 車	バ ス	J R	山 電	付き添い通所	バイク
男 性	2	2	0	0	0	2	1
女 性	1	0	0	0	0	4	0
計	3	2	0	0	0	6	1

## Ⅲ 生活支援

### 1 1日のスケジュール（日課の基本）

午 前	9：00	来所、体調管理等
	9：30	作業開始
午 後	11：30	昼休憩（昼食・歯磨き）
	12：00	余暇活動
	12：30	作業開始
	15：00	作業終了
	16：00	帰宅

### 2 昼食休憩等の過ごし方

日課の中心が「作業」であることから、休憩は食堂兼休憩室などで、各自の好みの場所で自由にとっていただいた。

また利用者個々の特性に応じた余暇の過ごし方、例えば体操、読書、塗り絵などを行う等の工夫を行った。

### 3 新型コロナ対策等

新型コロナウイルスの感染対策として、マスクの着用や手洗いは勿論のこと、食事場面では各テーブルに一人掛けを心がける等密を避け、常時窓を開けての換気、空気清浄機や机上にパーティションを設置する等の対策を行った。

また利用者、職員ともに出勤時の体温測定を徹底することで、早期発見に努めた。

### 4 作業以外の活動

#### (1) 行事の中止

計画する次の行事は新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした。

①一泊旅行、②のじぎくスポーツ大会、③ぱんたん親善運動会、④ぱんたんゆうあい文化祭

#### (2) 外出

トライやるウィークの取組として①姫路動物園、②姫路水族館に外出した。

#### (3) 1年を振り返る会

3月24日に職員が制作した「1年を振り返るDVD」を配布した。

#### (4) 実施した主な行事

5月・・・保護者会総会と職員顔合わせ会

8月・・・事業所説明会（特別支援学校生と保護者向け）

12月・・・クリスマス会（保護者会から弁当とプレゼントを提供していただく）

3月・・・事業所説明会（特別支援学校生と保護者向け）

## Ⅲ 利用者支援、作業支援

### 1 納豆工房なっところちゃんの利用者支援と作業支援の基本

以下の(1)～(5)を基本に支援を行った。

(1) 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行うこと。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに沿った関わりを大切にすること。

(2) 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者やグループホームと連携しながら取り組むこと。

(3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・管理者又はサービス管理責任者



- ・担当支援員が同席して年2回（6か月に一度）実施すること。
- (4) 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱に据えた充実した暮らしづくりの応援を積極的に行うこと。
- (5) 作業支援の基本は、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切にする」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、ステップアップを目指して「就労移行支援事業所」や「A型事業所」「一般就労」を目指していくこと。
- (6) 法人内の連携を図り、友愛の家の利用者のKさんを積極的に受け入れるとともに、利用者が混乱なく納豆工房なっとこちゃんで働けるよう情報の共有に努めるとともに、必要な調整を行うこと。

## 2 作業内容

- (1) 納豆製造作業
- (2) 販売・ショップ運営

## 3 主な取り組み

### (1) 「納豆工房なっとこちゃん」の設置と特徴

2020年10月19日（月）、兵庫県の指定（ワークホーム高砂の従たる事業所）を受けて、高砂市曾根町に「納豆工房なっとこちゃん」を設置。希望山荘敷地内の旧納豆作業所を廃止した。事業所の機能としては、①納豆の製造を行う「作業場機能」 ②納豆の販売や周辺の福祉事業所の製品も販売する「福祉アンテナショップ機能」 ③納豆の製造や販売、製造現場の見学などをとおして障害者理解を深めていただく「啓発的機能」を主なものとして位置付けている。

納豆工房では、生産量を増やす為に大型冷蔵庫と発酵機を増設したほか、エアーシャワーや滅菌庫などの新たな設備を取り入れ衛生面なども強化した。また、福祉アンテナショップでは、他事業所の商品を取り扱うことで事業所同士の交流が持て、利用者支援の情報交換も積極的に行えるようになった。また、パート職員を増やすことで、正規職員が利用者支援を行える環境が整い、製品のチェック体制を強化し、品質の維持・向上が図られる環境が整えた。

### (2) 製造の取組み

2021年6月から、HACCPの導入と運用が完全義務化への準備と取組を行った。

2023年4月から、遺伝子組換え表示制度の見直しに伴い、表示シールを見直した。

### (3) 販売の取組み

#### ① 直販店（15事業所→22事業所）

自主生産する「なっとこちゃん」の販売に加え、福祉事業所等から商品を仕入れ「福祉アンテナショップ」としての機能充実を図った。

（取扱商品の提携事業所）

あかりの家、あしたばの家、いっぽいっぽ事業所、GreenLeaf、神戸光生園、こころね、コスモス事業所、ごりんや、たかはしサポートセンター、丹南精明園、ドレミ農園、ほのか工房、パイオニア、真砂園、有機茶房ごえん、わかば学園、わかばや、納豆工房なっとこちゃん、市川町、籠谷、アルペジオカフェ、前橋農園

#### ② 取扱店

企業・協同組合、福祉施設が運営する店舗に出荷した。

ヤマダストア株式会社全8店舗（阿弥陀、花田、北野、青山、網干、新辻井、朝霧、須磨離宮公園前）、JA兵庫南5店舗（にじいろふぁーみん、ふぁーみん高砂、神吉、八幡、播磨）、JA兵庫西旬彩蔵、元気工房さよう、デュピオ、ごりんや、ごえん、高砂市観光交流ビューロー「結びん」（8法人19店舗）

ヤマダストア株式会社の神戸方面への事業拡大に伴い、朝霧・須磨離宮公園前の両店舗への配送業務は、2022年2月から同社物流センターへの委託（センターフィー）を利用。

2022年7月からセンターフィーをヤマダストアー全店に適用。

2022年6月 ヤマダストアーオリジナル「毎日なっとこちゃん」の販売開始。

#### ③ 通信販売

- ・ 2021年6月に開設したStores（ストアーズ）の販売を促進した。
- ・ 株式会社健康ライフ（通販）に出荷
- ・ 2022年12月からふるさと納税を開始

#### ④ イベント出店等

3月30日～4月4日 山陽百貨店6階「兵庫のうまいものと五つ星フェア」（姫路）出店

- 8月20日 粘覧会出店(大阪nu茶屋町4F)
- 9月17日 兵庫セルフ+nukumoriマルシェ(淡路ワールドパークOnokoro)出店
- 10月25日 兵庫セルフ+nukumoriマルシェ(兵庫県庁)出店
- 11月6日 たかさご市社協ふれあいフェスタ2022(高砂)出店
- 11月6日 兵庫のうたごえ祭典(加古川)出店
- 11月14日 兵庫セルフ+nukumoriマルシェ(姫路大手前公園)出店
- 11月27日 兵庫セルフ+nukumoriマルシェ(かじの里メッセみき)出店
- 12月9日~10日 第2回ひょうご事業所フェスティバル(神戸)出店
- 3月24日 兵庫セルフ つながるマルシェ(兵庫県庁)出店

その他、神戸聖隷事業団「光マルシェ」で週1回出荷販売。ステップハウス、延命寺、わかば学園、チャレンジに週1回配達販売。高砂市社会福祉協議会、真砂園保護者会、朝日の里保護者会、播磨高砂苑、つくし野、のじぎくの里に不定期に配達販売。

(4) 社会貢献

- ① こども食堂への納豆寄付 3回(5月、7月、12月)
- ② トライやるウィーク(松陽中学4名の受け入れ 11月)

(5) 賞歴

- 2022年1月19日 兵庫県主催「農福連携コンテスト」優秀賞受賞
- 2023年4月20日 兵庫県高砂警察署長「感謝状」授与(予定)

9 作業収入と工賃支給

(単位:円)

		令和3年度	令和4年度	備 考
収入	納豆販売収入	3,163,174	12,792,531	令和3年度は1月~3月の3ヶ月
支出	工賃支給額	618,140	3,264,540	利用者工賃
	作業員賃金	0	728,337	大豆、マスク、ケース、衛生用品等
	作業経費	2,480,314	8,548,021	
	消費税	64,720	251,633	
	計	3,163,174	12,792,531	
収 支 差 額		0	0	

10 利用者工賃の考え方と「業績賞与」について

(1) 工賃は「工賃支給要領」に基づき支給した。この要領により生産活動に伴う純利益を工賃財源としつつ、各利用者の作業能力の評価を行い、加減した時間給に働いた時間数を乗じて得た額を工賃とした。

(2) 工賃については、毎月第2水曜日に支給し、一時金は4月に支給する予定。

(3) 工賃支払い実績

(単位:円)

	4月	5月	6月	夏季一時	7月	8月	9月	10月
生活介護	120,090	133,080	132,620	70,000	116,300	117,340	130,610	135,060
就労B								111,460
計	120,090	133,080	132,620	70,000	116,300	117,340	130,610	246,520

	11月	12月	冬季一時	1月	2月	3月	春季一時	計
生活介護	130,980	119,600	210,000	118,780	124,820	146,560	210,000	2,015,840
就労B	115,140	101,820	200,000	99,780	131,980	158,520	330,000	1,248,700
計	246,120	221,420	410,000	218,560	256,800	305,080	540,000	3,264,540

	延べ人数		平均工賃月額
	日	月	
生活介護	1,161	84	23,998
就労B	536	26	48,026
計	1,697	110	29,677

## IV 健康管理・栄養管理などの支援

### 1 健康管理及び保健衛生等

#### (1) 保健衛生会議の開催

「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、感染症予防、作業環境管理・改善に努めた。

#### (2) 定期的な健康診断と体重測定

定期健康診断については、空腹時で7月（利用者と職員でワークホーム高砂として実施）と1月（職員のみ）に実施し、結果については、井野嘱託医師に報告し指導を受けた。また、医師の意見も添えて、その結果を各家庭に配布し、懇談会等で親御さんに説明するように努めた。

「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。特に気になる利用者については、体重を毎日測定し記録する中で本人の意識を高めるように支援した。

また、糖尿病の利用者へは、糖尿病食を斡旋するなどの対策をおこなった。

#### (3) 作業環境の把握

各利用者に水筒1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握しながら体調管理を行った。

#### (4) 感染症対策

○ インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症対策全般については、看護師を講師とする学習会を開催し職員の知識を深めるとともに、感染症対策を実施した。具体的には、検温の実施、アルコールによる手指消毒、マスクの正しい装着支援、次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ等の拭き取りやパーテーションを利用した食事場面での非対面、十分な換気等による「3密（密閉、密集、密接）」の回避など、可能な限りの対策を実施した。

○ 作業終了時や食事前、トイレ使用後などについては、手洗いの励行とアルコールによる手指消毒が徹底されるよう積極的に声かけを行うなど、利用者及び職員の感染症予防に対する意識向上を図るよう努めた。

#### (5) 口腔衛生の徹底

昼食はゆっくりよく噛んで食べるよう、食後は歯磨きの声掛けを行った。特に上手に歯磨きができない或いは口腔内の汚れが目立つ利用者には、職員が付き添い歯磨きを徹底した。

#### (6) 生活習慣病の予防

健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。

グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などの出現に対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などに関しては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達するよう努めた。

#### (7) グループホーム利用者への支援

専任の看護師が、週に2回グループホーム利用者に対し入浴支援と身体観察を行い異常の早期発見に努めた。

### 2 栄養・給食について

#### (1) 業者との連携

利用者の昼食の充実と安心・安全な提供を目的として、業者（有限会社ひでかつ給食）と連携して給食提供を行い、より良い給食の提供に努めた。

#### (2) 新型コロナ感染症対策

コロナ対策として、カレーなどを現地で盛り付けるお方法から弁当に切り替え、お楽しみメニューを提供した。また納豆「なっとこちゃん」を毎日提供した。

## V 人権擁護、虐待防止の取り組み

### 1 虐待防止の取り組み

虐待防止では、担当職員が中心となって職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を設け、人権意識の向上をめざした。また、引継ぎ時間を活用し、虐待について施設長やサービス管理責任者が職員会議で問題提起するなど職員の意識向上に取り組んだ。

2 本年度の取り組み

職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援をふり返ることが虐待防止につながる。定期的に職員間で話し合う場を設け自己を見つめ直し取り組みを行った。

VI 防災への対応

- 1 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 2 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 3 防犯設備 敷地内に防犯カメラを4箇所設置、建物内にセキュリティーシステムを設置。
- 4 防災訓練 10月避難訓練、通報訓練を実施 3月避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。

VII 施設サービス評価、苦情解決

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、保護者会役員を通じ、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、ご本人からの意見を聞けるようにした。

苦情受付担当者： 山口 秀人

苦情解決責任者： 長谷川 博信（理事・施設長）

第三者委員： 川本知代子（あかりの家評議員）、高尾 剛一（あかりの家評議員）

VIII 職員研修（施設外研修）・会議費等（主なもの）

月	研修名	場所	参加数
6	法人虐待防止研修	法人内	6名
8	食品衛生責任者養成研修	明石	1名
9	サービス管理責任者研修	神戸	1名
	食品衛生責任者研修	加古川	1名
11	農福連携施設視察研修	丹波市	1名
	食中毒防止研修	加古川	1名
12	近畿地区知的障害関係施設長等会議	京都	1名
	パワハラ防止研修	法人内	1名
1	第10回障害者支援施設部会全国大会	大阪	1名
2	社会福祉法人研修	神戸	1名
	障害者虐待防止研修	高砂	1名
	サービス管理責任者更新研修	神戸	1名
	SDGSの視点で考える工賃向上研修	小野	1名
	インボイスセミナー	オンライン	1名

IX 資格取得

名称	参加数
食品衛生責任者	2名

X 地域支援、地域啓発活動など

1 見学・実習の受け入れ等

見学については、随時受け入れた。

2 機関誌の発行

毎月月刊ワークホームだよりに寄稿し、保護者に配布した。

3 情報の発信

(1) 月刊ワークホームだより

毎月、「月刊ワークホームだより」に寄稿し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。また、地域の方や関係者にも配布した。

(2) 広報の展開

Instagramフォロワー数 1,573件(2023年) (366件(2022年))  
 Facebookフォロワー数 118件(2023年) (100件(2022年))  
 8月 まるはりムック「はりまの温泉&温活」に掲載  
 10月 地元建設業の発刊する「クリエイト通信」に掲載  
 11月 チラシの更新  
 12月 KissFM神戸 シャカリキに投稿・商品紹介(約6分)  
 3月 リビング姫路、加古川に前橋農園のプレゼント交換場所として掲載

IX 保護者会活動

ワークホーム高砂と一体的に実施した。

X 職員の状況

(2023. 3. 31)

1 構成

(単位：人)

職種等		施設長	医師	支援員	作業 支援員	支援員 補助	事務員	看護師	計
雇用形態									
正規職員 嘱託職員	男	1		2					3
	女			2	1		1	1	5
	計	1		4	1		1	1	8
補助職員 (パート)	男		(1)						(1)
	女					7			7
	計					7			7
合計		1	(1)	4	1	7	1		15 (1)

2 年齢別構成

(単位：人)

職種等	20代	30代	40代	50代	60代	計
雇用形態						
正規 嘱託職員	2	2	2	2		8
補助職員	1		3	3		7
合計	3	2	5	5		15

# 2022(R4)年度 グループホーム(共同生活援助)事業報告書

## 1 施設の名称、定員(現員)及び所在地

名称	定員(現員)	所在地
希望山荘日笠	10人(10人)	兵庫県高砂市曾根町1704-4
オリーブの家	7人(7人)	兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋375-16
友愛の家	6人(6人)	兵庫県高砂市曾根町1704-5

## 2 利用者(入居者)の状況

《希望山荘日笠》

(2023. 3. 31現在)

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
女性	53	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H6. 4. 1~
男性	63	A	区分5	あすなる学園(生活介護)通所	高砂市	H14. 7. 1~
女性	48	A	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R3. 2. 1~
男性	38	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
男性	39	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
女性	42	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H28. 4. 1~
男性	50	A	区分5	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	42	B1	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	加古川市	R1. 5. 1~
男性	34	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	42	A	区分5	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~

《オリーブの家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
男性	56	B1	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H6. 4. 1~
男性	49	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H25. 11. 1~
男性	42	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	R1. 5. 17~
男性	52	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H27. 5. 1~
男性	49	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	播磨町	H28. 9. 1~
男性	38	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H29. 4. 1~
男性	41	B1	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	播磨町	R4. 12. 1~

《友愛の家》x

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日
男性	39	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	37	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	27	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	42	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	姫路市	H29. 8. 1~
男性	52	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	加古川市	H29. 9. 1~
男性	55	A	区分4	あかりの家(生活介護)通所	播磨町	H30. 3. 24~

利用者の平均年齢=45.0歳

## 3 職員

(2023. 3. 31現在)

職種	常勤・非常勤・兼務等	性別	年齢
管理者	あかりの家副施設長兼務	男性	53
サービス管理責任者	あかりの家支援部長兼務	男性	51
生活支援員兼世話人	常勤	女性	47
	常勤	女性	37
	常勤	男性	25
	常勤	男性	37
	常勤	男性	34
	常勤	男性	29
	常勤	男性	25
世話人	非常勤(パート)	女性	59
	非常勤(パート)	女性	62
	非常勤(パート)	女性	52
	非常勤(パート)	女性	42

#### 4 運営について

##### (1) グループホームの安定的な運営と安全で安心なホームづくり

重度の自閉症者や知的障害者が地域の中で必要な支援を受けながら安心して暮らせるグループホームとして、安定的な運営を図った。

また、夜間の安全を守るための「宿直」体制については、あかりの家やワークホーム高砂の協力を得て、法人全体で支える仕組みを継続し、職員間の連携を更に強めながら、支援体制を確保した。

さらに、定期的な生活器具の安全点検や避難訓練を実施するなど、安全で安心なホームづくりに取り組んだ。

##### (2) 入居者の豊かな暮らしの創造

コロナ禍であっても、豊かで広がりのある暮らしづくりのため、入居者の自由時間の充実、特に休日の過ごし方について、可能な限り多様な過ごし方が体験出来るよう努めた。

具体的には、希望山荘ではお誕生日会の実施やサッカー教室への参加、オリーブの家ではビーズ暖簾の製作や感染に配慮しながらのウォーキング、友愛の家では、祝日企画としてホルモンうどんパーティーやフレンチトースト作りを実施。

##### (3) 入居者の健康管理の充実

入居者の健康管理の充実を図るため、定期的な医療機関への受診(歯科、耳鼻科、内科など)に加え、生活習慣病などを意識した食事の提供、適度な運動や異常の早期発見に努めた。また、体調不良等、受診の有無を考慮し、判断の上必要であれば受診同行し、受診結果を職員に共有した。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、法人をあげてその予防対策に取り組んだ。

###### [ 新型コロナウイルス感染予防対策 ]

- 日常掃除の一環として、次亜塩素酸ナトリウムやアルコール(エタノール 70%以上)によるドアノブやテーブル、台所、トイレなどの消毒拭き掃除を取り入れた。
- 感染リスクが高まる食事の場面では、パーテーションを設置するとともに、利用者同士の間隔を空けて食事を摂るようにした。また、人数が多い場合は、前半後半に分けて食事を提供した。
- 食事前後や帰荘時など、手洗いやアルコールによる手指消毒を必ず行うように支援した。
- 3密を防ぐため、食事や入浴以外の時間は、利用者は各自室で過ごすよう配慮した。
- グループホーム内でも利用者・職員ともに常時マスクを装着し、汚染した場合や、昼食後は新しいマスクに交換した。

##### (4) 体験宿泊の継続実施

グループホーム希望山荘日笠とオリーブの家の空き部屋を活用し、地域の在宅障害者が親元を離れて生活体験をする「体験宿泊」を位置づけ、在宅障害者の地域生活を支援できるよう体制を継続した。新型コロナウイルスの影響もあり、今年度は、1名の体験利用があり(約2週間)、正式契約に至った。

##### (5) 支援員、世話人の専門性の向上に向けた取り組み

入居者の生活の質の向上や安全で安心な生活づくりのためには、支援員や世話人の専門性の向上が欠かせないことから、職員の資質向上のための研修機会を積極的に設けた。

##### (6) 地域とのつながり

地域に根ざしたグループホームをめざして、オリーブの家では清掃活動、希望山荘日笠及び友愛の家では日常のゴミ出しや隣保への広報配りなどに参加した。

# 2022（令和4）年度 地域支援センター あいあむ 事業報告書

2023. 3. 31 現在

## ‘2022（R. 4）年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	東播磨臨海地域における相談支援機能強化事業	’06(H.18). 5. 22	2市2町委託事業
2	障害児相談支援事業	’12(H.24). 4. 1	高砂市指定
3	計画相談支援事業	’12(H.24). 4. 1	高砂市指定
4	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	’13(H.25). 4. 1	県指定
5	障害者等相談支援コーディネート事業	’07(H.19). 10. 1	県委託事業
6	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	’13(H.25). 6. 1	高砂市委託事業
7	高砂市障がい者基幹相談支援センター	’19(R.1). 4. 1	高砂市委託事業
8	稲美町障がい者基幹相談支援センター運営にかかわる技術顧問契約	’22(R.4). 4. 1	稲美町社協委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」・「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、8つの事業を展開し東播磨圏域における地域支援の拠点を目指して活動を行った。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえながらも、徐々に対面での活動を増やしていった1年であった。一方でコロナ対応により定着していったオンライン会議なども積極的に導入し、一人ひとりにあった支援を「本人中心支援」の観点から、出来る範囲で取り組み融合しながら進んだ1年であった。

## I 実施事業

### 1 東播磨臨海地域相談支援事業（2市2町相談支援事業）

		加古川市	高砂市	播磨町	稲美町	計
		H29年9月末終了	H31年3月末終了	2件(2人)	R4年3月末終了	2件(2人)
相談 形態	訪問			0件		0件
	来所			2件		2件
	同行訪問			0件		0件
	電話			0件		0件
	メール			0件		0件
	ケア会議			0件		0件
	関係機関			0件		0件
	その他			0件		0件

- ・06年5月22日から、加古川市・高砂・播磨町・稲美町より委託を受け事業開始
- ・週1日。播磨町は福祉会館・稲美町は社会福祉協議会で2時間窓口相談実施。
- ・新型コロナ感染で緊急事態宣言、まん延防止措置発令時は当法人内務所にて電話対応のため待機し実施。
- ・基幹相談支援センター開設に伴い加古川市は29年9月末、高砂市は平成31年3月末、稲美町は令和4年3月末で終了

### 2 障害児相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定)

その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始

計画作成者 101名(高砂市81名 加古川市19名 播磨町1名)



3 計画相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定)

その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始

計画作成者 343名

(高砂市：193名 加古川市92名 播磨町13名 稲美町12名 神戸市9名 加東市1名  
姫路市：16名 小野市：1名 豊岡市：1名 名古屋市：1名 尼崎市：2名 大津市：1名  
淡路市：1名)

4 指定一般相談支援事業所 (12年4月1日より県の指定により事業開始)

(1) 地域移行支援 実施者 1名 (淡路市1名)

(2) 地域定着支援 実施者 3名 (加古川市1名、高砂市2名)

5 障害者等相談支援コーディネーター事業 (県新規事業としてH19.10.1あかりの家に委託)

(1) 市町相談支援事業への後方支援 (困難事例等への対応・助言、情報提供など)

区分	助言・指導の区分				合計	
	相談支援体制等の構築・運営に必要な助言・指導	相談支援ケースへの対応等に必要な助言・指導	その他	左記のうち医療的ケア児関係		
相談関係	①指定相談支援事業所従事者	109	119	13	21	262
	②市町職員 (障害福祉担当課に限る)	98	1	15	7	121
	③上記以外の相談支援関係者 (例：障害者相談員、民生委員等)	123	42	15	12	192
	④保健・福祉関係者 (市町職員含む)	14	12	18	4	48
	⑤教育関係者 (市町職員含む)	28	3	10	9	50
	⑥労働関係者 (ハローワーク等行政関係者)	0	0	0	0	0
	⑦企業等	0	0	0	0	0
	⑧障害福祉サービス事業者等	49	19	62	47	177
	⑨その他 (協議会事務局・委員等、育成会・各団体)	107	17	39	9	172
	⑩障害者本人	0	6	1	0	7
	⑪障害者の家族等	7	1	4	0	12
	合計	535	220	177	109	1041

(注) 件数・・・助言・指導の対応回数を記載

(2) 研修会の開催

開催日時・講演会名	開催場所	内容	参加者数
令和4年 11月18日 13:30~16:00 ※企画運営	加古川総合 庁舎2階 会議室	・形式 ( 講義形式 ) ・主なテーマ・ <u>進行</u> 医療的ケア児等コーディネーター連絡会 チーム支援ネット研修会 『医療的ケアの実際とセンターの役割について』	相談支援専門員 医ケア児等コーディネーター 行政、福祉 教育、医療
令和5年 3月24日 13:30~16:00 ※企画運営	加古川総合 庁舎2階 会議室	・形式 ( 講義形式 ) ・主なテーマ・ <u>進行</u> チーム支援ネット研修会 『あらためて考えてみる相談支援専門員の役割』	相談支援専門員

令和4年 6月24日 13:30~15:30  ※企画運営	加古川総合 庁舎2階 会議室	・形式（ 講義形式 ） ・主なテーマ・ <u>進行</u> 基幹相談支援センター連絡会 『相談支援従事者初任者研修受講修了者 R3年度対象 トライ応援研修』 3市2町基幹相談支援センター相談員3名 主任相談支援専門員 5名	相談支援専門員
令和5年 3月10日 13:30~16:30  ※企画運営	加古川総合 庁舎3F 機能訓練室	・形式（ 講義形式 ） ・主なテーマ・ <u>進行</u> 基幹相談支援センター連絡会 『相談支援従事者初任者研修受講修了者 R4年度 トライ応援研修』 主任相談支援専門員 5名 3市2町基幹相談支援センター相談員3名	相談支援専門員

(3) 圏域内及び圏域間の相談支援関係機関、療育係機関の連携のための業務

- ① 県関係機関、市町、医療機関、就労機関、特別支援学校、施設、事業所などの連携
- ② 就業・生活支援センター、加古川市立就労支援センターとの連携
- ③ 現存する各種障害者児団体・ネットワーク会議（雇用・地域生活・相談事業 権利擁護）に参加
- ④ 3市2町及び圏域における地域自立支援協議会への参加（年間48回）
- ⑤ 東播磨相談事業者チーム支援ネットの運営（研修会、連絡会）
- ⑥ 東播磨圏域3市2町基幹相談支援センター連絡会開催（3回）
- ⑦ 第2回 東播磨圏域 医療的ケア児等コーディネーター連絡会 開催（1回）
- ⑧ 東播磨圏域3市2町自立支援協議会連絡会開催（1回） 他

6 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業（高砂市新規事業として13. 6. 1あかりの家に委託）

(1) 会議活動回数

- ①運営会議2回 ②相談支援専門員による地域課題抽出の会1回 ③こども部会4回 ④事業所ワーキング4回 ⑤トライアングルプロジェクト推進ワーキング1回 ⑥くらし部会4回 ⑦ヘルパー事業所連絡会1回 ⑧お出かけマップ作成ワーキング3回 ⑨防災手帳改訂ワーキング3回 ⑩就労ワーキング5回 ⑪事務局会議9回 ⑫防災研修会1回 ⑬ユニナビサッカー教室4回 ⑭ユニナビサロン4回 ⑮ユニナビシネマ1回 ⑯ユニナビTシャツデザインコンテスト1回 計48回

※各会議における案内文の送付、議題表・名簿作成、資料作成、議事録作成、調整、会議の進行など（全体会は除く）

(2) 高砂市福祉マップ 障がい者編 更新作業

(3) ホームページ管理・更新等

- ①ホームページチラシ作成
- ②ホームページ掲載 計 60件  
※参考 ホームページ閲覧数 9,974件/年>
- ③citiesmap 運営（2市2町協力企画）
- ④SNS 掲載（Instagram、Facebook、LINE@）各353件

7 高砂市障がい者基幹相談支援センター（高砂市新規事業として19. 4. 1あかりの家に委託）

別紙事業報告 参照

- 8 稲美町障がい者基幹相談支援センター運営にかかる技術顧問契約  
 (稲美町社協新規事業として21.4 あかりの家に委託)  
 2020(R2)年7月に開設された稲美町障がい者基幹相談支援センターにおける職員への助言(SV)、  
 相談員連絡会でのミニ研修と助言、各種研修講師等を行う。

(1) 基幹センター職員対象 相談支援SV	12回	
(2) 相談員連絡会	3回	
(3) 研修会講師	1回	計16回

## Ⅱ 職員研修

### 1 職員研修内容(基幹センター職員は別紙記載)

月	研修内容	研修地	参加者
12月 8日	兵庫県相談支援専門コース別研修 「相談支援専門員に求められる意思決定支援の展開」	姫路市	1名
12月 15日	はぐるま研修会『働くってなあに?』	加古川市	2名
1月 9日	防災力向上研修	オンライン	2名
1月 2月	兵庫県相談支援従事者現任研修 1月13日、2月7日・8日・9日	オンライン	1名
2月 22日	障害者虐待防止研修	高砂市	2名
2月 27日	兵庫県 相談支援を“つなぐ”研修	神戸市	1名
3月 1日	兵庫県 相談支援専門コース別研修 セルフマネジメント研修	西宮市	1名
3月 24日	チーム支援ネット研修会 『あらためて考えてみる相談支援専門員の役割』	加古川市	6名

## Ⅲ 実習受入

- (1) 学生、施設職員等  
 新型コロナウイルスの影響のため、22年度は受け入れなし。

## Ⅳ 関係団体等への役員や職員派遣等 (基幹センター職員は別紙記載)

県立東はりま特別支援学校 学校評議員会	学校評議員	13. 6~	1名
一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク	副代表理事 事務局長	13. 11~ 17. 6~	1名
東播磨相談事業者チーム支援ネットワーク	主宰者、構成員	08. 5~	9名
加古川雇用(連絡)調整会	委員	07. 11~	1名
兵庫県合理的配慮アドバイザー	委嘱	16. 5~	1名
兵庫県医療的ケア児支援関係者連絡会議	委員	17. 9~	1名
高砂市 権利擁護センター設置検討委員会	委員	19. 5~	1名
加古川市 成年後見制度利用促進及び権利 擁護制度検討委員会	委員	19. 5~	1名
いなみ野特別支援学校 学校運営協議会	委員	22. 4~	1名

V 地域自立支援協議会への役員や職員派遣等（基幹センター職員は別紙記載）

兵庫県	自立支援協議会	相談支援部会オブザーバー	08. 8～	1名
東播磨圏域	自立支援協議会	委員	09. 12～	1名
明石市	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	13. 12～	1名
加古川市	障がい者自立支援協議会	全体会 委員	09. 12～	1名
		くらし、こども、しごと	10. 5～	1名
		相談支援ネット、差別解消	18. 4～	1名
播磨町	地域自立支援協議会	推進会議 オブザーバー	10. 6～	1名
稲美町	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	11. 4～	1名
		各部会 オブザーバー	11. 4～	1名
高砂市	障がい者自立支援協議会	全体会構成員/ オブザーバー	08. 2～	1名
		運営会議 委員	10. 6～	1名
		くらし部会	12. 4～	2名
		ヘルパー事業所連絡会	19. 5～	1名
		こども部会	12. 5～	2名
		課題抽出の会、高砂コンサルタ	17. 3～	相談員全員
		本人会 高砂ユニナビ	18. ～	随時

VI 講師、発表、寄稿等（基幹センター職員は別紙記載）

兵庫県	相談支援従事者初任者研修	3 クール× 5日=15日	講師 司会他	1名
	兵庫県医療的ケア児等 Co. 養成研修	10/9 11/9		
	兵庫県相談支援基礎研修	7/1		
重度障害者通所施設 さち職員研修会	「医療的ケア児支援法について」	5/25	講師	1名
くれよん 法人研修会	「虐待防止について」	6/3	講師	1名
ファミリーサポートセンター提供・両方会員フォローアップ講座	「障がいをもつ子どもへの理解とかかわり」	7/13	講師	1名
稲美町自立支援協議会全体会	「自立支援協議会の役割について」	7/20	講師	1名
兵庫県手をつなぐ育成会 R2 年度地域生活援助者養成講座	「支援の基本」	9 録画	講師	1名
東はりま特別支援学校 職員人権研修	「合理的配慮について」	9 録画	講師	1名
ハピネスさつま研修会	「障害者の生について」司会	10/4	司会	1名
加古川社協 相談支援職員研修会	「相談支援における多職種連携について」	10/13	講師	1名
ハピネスさつま研修会	「成年後見制度について」司会	11/2	司会	1名
加古川社協 相談支援職員研修会	「多職種連携パネルディスカッション」	11/15	講師	1名
播磨町役場 人権教育研修会	「コロナ禍における偏見と差別 町職員として知っておくべきこと ～ハンセン病療養所視察より感じたことから～」	11/16	講師	1名
障害者就労支援研修会	「障害者就労支援研修 働くってなあに？」	12/14	講師他	1名
つつじの家 法人研修会	「虐待防止について」	12/17	講師	1名
野口公民館 家庭学級	「最近の福祉の動向について」	1/13	講師	1名
兵庫県肢体不自由児者父母の会連合会 西地区療育研修会研修	「医療的ケア児支援法について」	2/20	司会	1名
高砂市人権教育研修会	「虐待防止について」	2/9	講師	1名
稲美町 人権教育研修会	「地域で支え合うために～Iさんの暮らしから考える～」	3/19	司会等	1名
加古川市手をつなぐ育成会 本人会	「今、わたしたちにできること」	3/17	講師	1名

# 2022（令和4）年度 高砂市障がい者基幹相談支援センターみんと 事業報告書

2023. 3. 31 現在

みんとは今年度、専任の相談支援専門員2名と兼任の相談員2名で実践を積み上げた。  
ここに4年目の実践を報告する。

## I 総合相談

### 1 相談支援を行った障害（児）者の人数

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
障がい者	身体障害	31	16	26	26	28	12	8	15	17	11	3	22	215	5%
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	知的障害	53	77	68	58	61	75	79	69	64	113	88	136	941	24%
	精神障害	114	67	111	108	149	94	73	84	104	174	111	87	1276	32%
	発達障害	44	17	36	56	38	32	21	15	25	21	26	10	341	9%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	43	54	49	43	25	29	20	13	16	24	15	15	346	9%
	小計	285	231	290	291	301	242	201	196	226	343	243	270	3119	79%
障がい児	身体障害	3	0	0	0	0	0	0	0	0	8	16	53	80	2%
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	知的障害	8	2	11	5	6	37	20	26	69	36	62	45	327	8%
	精神障害	2	1	1	3	0	3	1	1	3	0	0	0	15	0%
	発達障害	21	37	25	40	29	68	21	33	16	5	26	51	372	9%
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	6	0	1	7	1	3	2	0	6	3	15	12	56	1%
	小計	40	40	38	55	36	111	44	60	94	52	119	161	850	21%
合計	325	271	328	346	337	353	245	256	320	395	362	431	3969	100%	

## 2 相談者種別

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
当事者	本人	81	71	106	97	111	128	101	80	117	139	114	130	1275	32%
	家族・親族	50	35	36	55	32	42	25	33	58	30	55	60	511	13%
	障がい者団体	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	2	6	0%
支援機関	相談支援事業所	67	50	40	58	86	44	25	45	45	52	65	54	631	16%
	サービス事業所	54	40	52	54	29	27	17	28	39	53	43	70	506	13%
	専門支援機関	1	2	8	2	4	0	2	1	2	6	1	3	32	1%
市	障がい・地域福祉課	10	14	10	12	16	7	14	14	16	13	12	7	145	4%
	高年介護課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0%
	生活福祉課	5	10	8	5	9	5	6	1	1	10	9	3	72	2%
	その他の課	3	4	9	2	5	17	13	8	8	13	5	11	98	2%
関係機関ほか	地域包括	11	4	9	9	4	3	2	0	2	6	0	0	50	1%
	健康福祉事務所	1	1	7	4	6	5	0	1	0	1	3	1	30	1%
	教育機関	10	7	11	16	11	30	12	15	11	9	24	27	183	5%
	医療機関	19	12	5	10	4	32	16	21	6	17	12	21	175	4%
	民生委員	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0%
	その他	13	20	27	22	19	13	11	8	14	46	18	42	253	6%
合計		325	271	328	346	337	353	245	256	320	395	362	431	3969	100%

## 3 支援方法

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
訪問	7	9	10	3	6	11	10	5	14	25	8	9	117	3%
来所相談	19	13	27	25	12	24	12	13	20	21	18	15	219	6%
同行	6	7	5	6	4	1	3	2	1	3	4	6	48	1%
電話・FAX	240	178	220	249	246	245	170	179	207	263	246	301	2744	69%
電子メール	51	58	55	50	58	63	41	41	65	73	81	82	718	18%
個別支援会議	0	1	7	6	7	4	3	3	4	1	2	11	49	1%
関係機関との調整	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	5	0%
その他	2	5	4	7	4	5	6	12	7	8	3	6	69	2%
合計	325	271	328	346	337	353	245	256	320	395	362	431	3969	100%

#### 4 支援内容

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
① 福祉サービスの利用に関する支援	166	84	119	127	151	111	71	65	142	116	105	127	1384	35%
② 障害や病状の理解に関する支援	8	6	14	7	8	3	1	5	6	1	8	8	75	2%
③ 健康・医療に関する支援	26	20	22	18	18	13	17	18	12	30	28	29	251	6%
④ 不安解消・情緒安定に関する支援	11	17	36	37	28	18	27	14	21	21	17	17	264	7%
⑤ 保育・教育に関する支援	20	23	20	20	12	71	28	38	26	16	52	70	396	10%
⑥ 家族関係・人間関係に関する支援	28	7	31	29	32	28	17	26	17	23	27	26	291	7%
⑦ 家計・経済に関する支援	5	11	22	22	33	38	22	5	17	44	21	27	267	7%
⑧ 生活技術に関する支援	29	30	2	8	26	18	6	20	14	22	31	24	230	6%
⑨ 就労に関する支援	17	31	33	47	5	31	18	24	32	43	38	59	378	10%
⑩ 社会参加・余暇活動に関する支援	0	1	0	2	7	2	4	6	5	34	2	2	65	2%
⑪ 権利擁護に関する支援	0	2	7	2	2	5	2	0	3	6	3	16	48	1%
⑫ その他（社会資源の活用など）	15	39	22	27	15	15	32	35	25	39	30	26	320	8%
(内 訳)														
介護保険に関すること														
生活保護に関すること														
虐待防止に関すること														
成年後見制度に関すること				1									1	
その他	15	39	22	26	15	14	32	35	25	36	30	26	315	8%
合 計	325	271	328	346	337	353	245	256	320	395	362	431	3969	100%

## Ⅱ 相談支援体制の整備

高砂コンサルタは2か月に1回のペースで開催していたが、1月は大雪のため中止、年5回の開催となった。6月に発行された「相談支援実務 Q&A」に沿って、相談支援専門員が知っておかねばならないこと等をクイズにし、楽しみながら学ぶ機会を持たた。

今年度の新しい取り組みとして、高砂市内の相談支援事業所限定の事例検討会を行った。和気あいあいとした雰囲気の中、各相談支援専門員が持つ情報の共有が図れた。2回目の開催を希望されたが、諸般の事情により叶わず。来年度は2回目開催できるように力を付けていきたい。

### 1 開催月日と研修内容と出席人数

月日	議 題	会場・出席者	参 加 者
第1回 5/20	○事業所案内(3事業所) 児童発達 こころniji 相談支援事業所 れりごー 相談支援事業所 まごころ ○高砂市より連絡 高砂市のルール 入所施設における入所調整について 地域生活拠点進捗状況 計画書の提出方法に関して 身体介護の扱いについて ○ワイガヤ座談会(ワイワイガヤガヤ親睦会)	ユーアイ帆っと センター1F 交流スペース 1・2  4名	○市内相談支援事業所 8ヶ所・13名 ○市外相談支援事業所 4ヶ所・6名 ○事務局：障がい福祉課 基幹相談支援センター 6名 合計25名
第2回 7/22	○事業所案内(3事業所) 児童発達支援 あっとほーむ 就労継続B型 ひばり 社協「みんなで楽しくハートフルデー2022」 ○相談支援実務 Q&A 「○×△ 答えてみんと 聞いてみんと ～インテイク等～」	高砂市文化保健 センター トレ ーニング室  3名	○市内相談支援事業所 8ヶ所・13名 ○市外相談支援事業所 3ヶ所・3名 ○事務局：障がい福祉課 基幹相談支援センター 5名 合計21名
第3回 9/26	○相談支援実務 Q&A 「○×△ 答えてみんと 聞いてみんと2 ～アセスメント等～」 ○事業所紹介(3事業所) 児童発達・放デイ なないろ加古川 就労継続A型 ハートタイム グループホーム ケアメゾン	高砂市文化保健 センター 健康 教育室  3名	○市内相談支援事業所 8ヶ所・10名 ○市外相談支援事業所 3ヶ所・4名 ○事務局：障がい福祉課 基幹相談支援センター 5名 合計19名
第4回 11/25	○事業所紹介(6事業所) 就労継続B型 ひなた 就労継続B型 いちごいちえ グループホーム ミライエ 訪問介護けあビジョンホーム高砂 福祉タクシーやまだ 自動車事故対策機構 療護施設 ○相談支援実務 Q&A 「○×△ 答えてみんと 聞いてみんと3 ～サービス等利用計画・障害児支援利用計画 作成等～」	ユーアイ帆っと センター2F 交流スペース 6・7	○市内相談支援事業所 8ヶ所・11名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名 ○事務局：障がい福祉課 基幹相談支援センター 6名 合計24名
第5回 1/27	大雪のため、開催中止		



第5回 3/20	○事業所紹介(6事業所) 放課後等デイ さくら 就労継 A型 B型 YANESEKO 就労継続 B型 野に咲く花 就労継続 B型 チッチのお家 暮らしシッター ○相談支援実務 Q&A 「○×△ 答えてみんと 聞いてみんと 4 ～サービス担当者会議・多職種連携等～」	ユーアイ帆っと センター1F 交流スペース 1・2・3  3名	○市内相談支援事業所 8ヶ所・11名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・5名 ○事務局：障がい福祉課 基幹相談支援センター 5名 合計21名
事例 検討会 6/22	○事例紹介 ○グループワーク ○発表 ○まとめ ○東播磨圏域コーディネーターより解説	ユーアイ帆っと センター 2F 会議室  4名	○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名 ○事務局：基幹相談支援 センター 5名 合計16名

## 2 指定相談支援事業者等に対する情報提供・専門的助言

		個別支援に 関する相談	事業運営に 関する相談	専門機関紹介 等の情報提供	その他	合計
1	特定相談支援事業者・ 障がい児相談支援事業者	16	0	1	0	17
2	一般相談支援事業者	37	2	5	0	44
3	障がい福祉サービス事業者	13	18	5	0	36
4	その他	11	0	8	0	19
	合計	77	20	19	0	116

### Ⅲ 権利擁護・虐待の防止

権利擁護全般では年間48件の相談を受け付け、関係機関と連携して解決にむけて動いた。

高砂市成年後見制度地域連携ネットワーク協議会の委員委嘱を受け、会議に参画した。また成年後見支援検討会議（成年後見個別検討会議）に毎月参加、成年後見制度利用及びその他支援の必要性の検討をおこなった。

### Ⅳ 障がい者自立支援協議会の参画

今年度はコロナウイルス感染防止が収まってきていたので、部会、ワーキングは感染防止対策を行ったうえで通常通り開催できた。基幹センターみんとは、自立支援協議会と協働し、“だれもが、じぶんらしく、暮らせるまち”づくりに向けて、関係機関と連携しながら地域の推進に努めていきたい。

会議・活動	分類	参加者	実施日	
全体会		1名	2023.2/16	
運営会議		1名	2022.4/14、12/15	
専門部会	くらし部会	1名	2022.6/2、10/6、12/1、2023/2/2	
	こども部会	1名	2022.5/10、8/30、11/8、2023.1/10	
ワーキング	課題抽出の会	2名	2022.4/11	
	こども事業所	1名	2022.4/19、7/12、10/11、12/13	
	医療的ケアワーキング	1名	2022/7/7、8/16、9/22、10/20、2023/1/12、3/8	
	保護者向けハンドブック	1名	2022/5/31、6/22、7/26、8/18、9/7、10/14	
	トライアングルプロジェクト推進ワーキング	1名	2023/2/28	
	お出かけマップ作成ワーキング	1名	2022/11/24、2023/1/19、3/8	
	就労ワーキング	1名	2022/6/17、7/21、8/19、9/27、10/21 2023/3/7	
	防災手帳ワーキング	1名	2022/6/6、7/15、8/24、10/3、10/20	
	ヘルパー事業所連絡会	1名	2022.6/23	
その他	本人会	2名	2022/5/28、8/27、10/1、11/26	
	高砂ユニ NAVI	サッカー教室 映画上映会	1名 3名	2022/5/14、10/29、12/3、2023/3/5 2022/8/13

以上

#### その他 研修会参加・研修講師

月/日	研修名	出席者（講師）
6/24	初任者応援研修	1名
8/1	支町相談支援担当者・基幹相談支援センター連絡協議会	1名
10/4	自殺対策研修	2名
10/25	管内自殺対策担当者連絡会議	2名
11/2	モニタリング結果の検証と基幹相談支援センターの役割	WEB 4名
11/16	高次脳機能障害における就労支援を考える	1名
11/18	医療的ケア児等コーディネーター連絡会	2名
12/8	兵庫県相談支援専門コース別研修	1名
2/22	虐待防止研修会	1名
3/6	市町相談支援担当者・基幹相談支援センター等連絡会議	1名
3/7	精神障害者地域支援連絡協議会	2名
2か月毎/1年間	高砂警察・高砂市役所・加古川健康福祉事務所 担当者会議	1名
毎月/1年間	成年後見支援会議	2名
2ヶ月毎/1年間	加古川雇用連絡調整会議	1名

#### おわりに

基幹センターみんとは、自立支援協議会と協働、6つのワーキングに参画、成果物を作り上げることができた。さらに高砂市が“だれもが、じぶんらしく、暮らせるまち”になるよう、関係機関と連携しながら、地域課題に前向きに取り組んでいきたい。

以上

# 2022（令和4）年度 ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

2023. 3. 31現在

## I 県レベル的活動

### 1 重点的取り組みに対する総括

#### (1) 高校生年代への支援の実施と効果検証

高校生年代（16～18歳）の相談は、全県で117名あった。相談内容は進路のことが多いが、生活面の課題が相談にあがることも多かった。学校面での不適応行動を丁寧に見ていくと、特性上の学習の困難さが見られたり、生活面での取りこぼしが見られたりした。

グループ活動は、当事者同士で集まり、体を動かすことや話をする場を実施したランチがあった。また保護者グループを実施したところでは、高校卒業後大学進学を目指している子どもの保護者を対象で行った。制度の話などの情報提供と、現在大学生の当事者とその保護者にも来ていただき大学生活の実際や、保護者にはどのようにサポートされてきたかをお話いただいた。

#### (2) 支援機関での実施プログラムの継続的支援の実施

クローバーペアレント・トレーニングは、7か所の児童発達支援事業所で実施（1年目）し、また、市町行政機関では、太子町子育てセンター実施された。また、全県での研修会を実施し、実施機関職員の支援力向上を図った。

ストレスマネジメント講座は6か所の福祉サービス事業所で実施をした（1年目）。概ね内容は好評で、次年度、2年目で各事業所スタッフで取り組んでいただく。

クローバーCRAFTプログラムは神崎郡福崎町で取り組まれた。

#### (3) 支援体制調査結果にみる役割の検討

今年度は早期支援体制についてまとめた。

早期支援体制 育児教室、育児相談について、保護者が就労していて継続相談にならないことがあり、そのため、利用対象者が少なくなり事業継続が難しくなっている地域があったり、連携必要性があるにも関わらず連携できる機関がないため、あっても待ち時間が長いなどの理由から連携がうまくいかないといった例が挙げられた。またつながってからの継続した連携も任せきりになってしまうことへの課題を挙げられた。

保・幼・こども園の課題として、「対象児童の増加に伴う人員不足」では発達障害やその疑いのある児童が増加傾向に伴い、加配の保育士・教諭を配置することが難しくなっていることで、各個人のニーズに合わせた保育・教育を行うことが難しくなっていることが挙げられた。また人材確保の段階で加配保育士や教諭だけでなく巡回相談指導員などについても募集の段階より確保が難しい状況にある。これら人員不足の状態が蔓延化している状況により担当職員の心身の負担も増加するため、休職や離職と言った悪循環となっていることも意見として寄せられた。「幼保・子ども園職員の支援力向上」では職員全体の理解や支援力の向上が指摘されている。中でも若手職員や加配職員の中には少ない知識の中で試行錯誤されながら保育を行われている状況もあり、そういった職員に対し児への発達障害の基本的な特性について、関わり方などの理解を深めていくことが課題とされている。また3歳児保育の開始に伴い幼児の中でもさらに、幼児早期の発達障害の理解やアセスメントの必要性を指摘するものもあった。

早期支援におけるクローバーの役割として考えられることとして、課題として挙げられている地域に対して、①職員の専門性向上のための支援、②連携機関の職員の支援力向上、③ペアレント・トレーニングの実施などが挙げられる。

## 2 事業実施状況

### (1) 普及啓発・研修

①研修 (実 4 回 延 8 回、延参加者数 446 人)

(参考：研修会詳細) ( ) 内は共催機関名 【 】 実施会場

日付	研修会名	参加者数
5. 26	発達障害のある方の相談支援にあたる支援者研修会【Zoom】	44
6. 29	クローバー ペアレント・トレーニング研修会【Zoom】	55
7. 9	2022 年度発達障害実務者養成講座(児童期) Zoom. ver. (兵庫県) 【Zoom】	全日程修了者 61
8. 29		1 日目 74
10. 15		2 日目 72
		3 日目 67
R5. 1. 9	2022 年度発達障害実務者養成講座(成人期) (兵庫県) 【兵庫県学校厚生会館】	全日程修了者 41
R5. 2. 14		1 日目 47
R5. 3. 9		2 日目 44
		3 日目 43

②講師派遣(県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など)

(延 20 件 延参加者数 986 人)

### (3) 研究発表、論文、分担執筆等

内容
啓発動画 「はばタンと一緒に発達障害について学ぼう」作成

### (4) ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	36 回(研修会情報等)
訪問者数	延 21,401 人(月平均延人数：約 1,780 人)
見られたページ数	延 65,073 ページ

## 3 調査・研究

・各市町における発達障害者支援調査：各市町で行う発達障害者支援の現状と課題を把握し、クローバーが担える役割を検討することを目的に調査を実施した。

## 4 機関連携

### (1) 連絡協議会の実施 実施回数 (延 2 回)

協議会名	回数	日時	場所	内容	参加者数
連絡協議会	第 1 回	7. 15	オンライン(ZOOM)	1 ひょうご発達障害者支援センター全県における令和 3 年度 事業報告について 2 ひょうご発達障害者支援センター、ランチにおける令和 3 年度 事業報告について 3 討議「支援機関への支援 地域支援体制づくり」 4 人事について	18 団体 35 名
	第 2 回	R5. 3. 7	中央労働センター	1 ひょうご発達障害者支援センター全県における令和 5 年度 事業計画(案)について 2 ひょうご発達障害者支援センター、ランチ令和 5 年度 事業計画(案)について 3 討議「教育機関に対してひょうご発達障害者支援センターが取り組めること-調査結果を踏まえて-」 4 行政機関による令和 5 年度 事業施策(県障害福祉課、県立こども発達支援センター、県教育委員会、兵庫労働局) 5 令和 5 年度 連絡協議会委員 公募の保護者について	17 団体 34 名

(2) ネットワーク会議等への出席 実施回数 (延 32 件)

主な会議名	役割
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員
発達障害者情報・支援センター 発達障害支援に関する地方自治体等の取組および関連情報データベース作成に向けた検討会	委員
発達障害教育情報支援センター 発達障害教育の情報提供等に係る検討会議	委員
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 役員会	副会長
全日本自閉症支援者協会 理事会	理事
兵庫県 発達障害者支援協議会	委員
発達障害者支援協議会 生活支援部会	委員
発達障害者支援協議会 医療部会	委員
発達障害者支援協議会 教育部会	委員
障害者雇用・就業支援ネットワーク会議	委員
発達障害者等就労支援連絡協議会	委員
障害者自立支援協議会相談支援部会	委員
広域特別支援教育連携協議会	委員
特別支援学校就職支援推進会議	委員
通級指導運営協議会	委員
ひょうごユースケアネット推進会議 代表者会議	委員
ひょうごユースケアネット推進会議 実務者会議	委員

(3) ブランチ業務調整会議 (年 9 回)

センター各ブランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う。兵庫県障害福祉課も参加した。新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、すべて web で開催した。

5 県委託事業

事業名	内容
発達障害実務者養成講座	発達障害実務者養成講座(児童期、成人期)の実施

II ブランチ的機能(担当圏域:東播磨、淡路)

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 新たな家族支援の取り組み

「発達障害(疑いも含む)のある方の配偶者の集まり」を延3回実施した。内容は、前半に講義(発達障害とは、カサンドラ症候群とは等)を行い、後半に参加者同士の話し合いのプログラムとした。回を重ねるごとに関係が深まり、最終日には参加者同士で話し合える場になった。

ペアレントメンター講演会は2回実施した。特に淡路で行った講演会は保護者、関係者 55名の参加があり、好評であった。次年度、洲本市でペアレントメンターの配置を前提に養成研修を行う予定。

父親の会は、参加者が集まらず実施できなかった。

(2) 高校生年代への取り組み

相談には、発達障害があり、特別支援学校に通う生徒から高校に通う生徒まで、幅広い方が来られている。また、義務教育年代ではないことから所属のない人もいる。よって、診断についても、幼少期に発見され長く支援を受けてきている方もあれば、高校生になって初めて診断された方もある。例えば、高校生生活を送る中で困り事が出てきたという場合は、内容により環境調整が必要な場合もあるが、高校生年代らしい対人関係の悩み等では個別の相談対応となっている。

高校へは入学できたものの、単位取得が危うくなってしまった場合などは、卒業を目指して対応するまたは、別の進路を検討するなどの対応となる。この場合に、対象児のこれまでの経過や能力、興味関心の方向に合わせて様々な形態の高校の情報や、福祉サービスの情報を利用しながら対応している。

周りが見えてくるが故の悩みやそれに伴い精神的に不安定な状態になってしまった場合等は医療機関へ

つないだり、卒業後に成人の福祉サービス事業所の利用を検討する場合は、事業所の見学同行や相談支援事業所へつなぐ対応も行っている。

所属のない方は概ね不登校状態での学校卒業の方であり、保護者との継続相談を続けながら、まずは家庭で保護者が関われることからスタートし、保護者と本人が納得して出かけてみようと思える場所を提案していくようにしている。

保護者のグループは、高校卒業後大学進学を目指している子どもの保護者を対象で行った。制度の話などの情報提供と、現在大学生の当事者とその保護者にも来ていただき大学生生活の実際や、保護者にはどのようにサポートされてきたかをお話いただいた。延べ3回の実施と、フォローを令和5年度に1回行った。受験生の親御さんの参加があり、受験前は心配の面持ちで参加されていたが、フォローではそれぞれ行先が決まり、一人暮らしの新生活についてサポートの仕方を意見交換していた。

## 2 事業実施状況

### (1) 普及啓発 研修

①研修 ○実施回数(実 2 回 延 2 回 参加者数 66 人)

〈参考：研修会詳細〉 ( ) 内は共催機関名 【】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
10.7	ペアレントメンター講演会 (兵庫県自閉症協会、 淡路障害者自立支援協議会) 【南あわじ市社会福祉協議会 203 会議室】 ※ハイブリット形式で開催	講演 「就学に向けての準備と入学後の学校生活について」 ペアレントメンター	55 (会場 12 オンライン 43)
12.1	ペアレントメンター講演会 (兵庫県自閉症協会 県立子ども発達支援センター) 【県立子ども発達支援センター】	講演 「就学に向けての準備と入学後の学校生活について」 ペアレントメンター	11

②講師派遣 ○実施回数(延 5 件 延参加人数 37 人)

## 3 コンサルテーション

(1)関係機関へのコンサルテーション 実施回数 (実 5 か所 延 15 件 )

職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

(2)クローバー ペアレント・トレーニング 実施回数(実 2 か所 延 12 件)

講座実施に当たり、児童発達支援事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

(3)ストレスマネジメント講座 実施回数(実 2 か所 延 12 件)

講座実施に当たり、障害者支援施設のスタッフへの技術付与を訪問により実施

## 4 相談支援

(1)相談・発達・就労支援状況

①相談支援 (実 275 人、延 1,398 件) (昨年度：実 276 人、延 1,239 件)

前年度に比べ、実人数が微減であるが、延べ件数は160件増加している。年齢別の割合は、16～18歳が微減で19～39歳が微増している。

就学前児童の相談では「児に対するかかわり方」や「就学」に関する助言を求められることが多く、関わり方については状況を詳細に聞き取りながら取り組むことのできる環境調整の方法を考える場とした。就学については進路はある程度固まっている保護者の方が多く、就学に向けた準備として就学がスムーズにいこうサポートファイルの作成を提案したり、登校に向けて歩く機会も増えるため体力づくりなどの助言を行っている。

就学後の児童においては学習やインターネット・ゲームの時間の付き合い方の他に、万引きや付きまといなどの非行関連の行動に対する助言を求められる事例が見られた。本人に発達障害の特徴があることが見逃されており、そのような事例では保護者と本人の得意なこと不得意なことの整理を行っていくように心がけた。

中高生は、発達障害があるが知的障害を伴わない地域の一般校に在籍している生徒から、知的障害を伴う特別支援学校の生徒まで幅広い層が来所している。

子どもが不登校の場合、子どもに合った環境調整を行ったり、行けそうな場を検討したりする。結果、学校以外であれば行けるという場合は福祉サービス利用をする場合もある。しかし、動けるのが保護者のみという事例においては、継続相談ができる機関があまりなく、継続支援となっている。また、保護者に障害があり、子どもと保護者それぞれに支援者がついている事例が増えた。その為、相談だけで終わらず、今後の進路や支援について関係者も含めての検討が必要となり会議が増えたり、調整が増えている。

大学生の相談では、障害の開示／非開示を含めた進路についての相談や高校時は不登校だったが大学進学を決めた事例では起床時間等の生活リズムを調整することの大切さを伝えた。

成人期の相談の一つとして、長期間ひきこもっている事例では、入浴しないという現状に対して家族が辟易し、関わることへの抵抗を感じるようになっていた。その為、ご本人への関わりを強要するのではなく、家族自身の生活の充実も意識してもらおうような言葉掛けを行った。その他、引っ越しや結婚、家族の死等、ライフイベントが大きく変わる中で揺れ動きに対して、寄り添いや言葉を伝えつつ、出来ることや出来ていることへの意味づけを都度行ってきた。

## ②発達支援 (実 46 人、延 198 件) (昨年度：実 46 人、延 236 件)

前年度より実人数は横ばいで延件数が減少した。

就学前児～小学生年代における発達支援は学習に関するプリント課題の取り組みを中心に行っている。学習以外にもソーシャルスキルに関する課題に取り組んでもらい、その結果を保護者と共有し本人への関わりかたを検討する事例も見られた。相談の中での取り組みとその内容を共有を行うことで相談者の見えにくい特徴を保護者にも客観的にとらえていただくことが可能となり、家庭での具体的な関わりに活かすための機会となっている。

中学生では、不登校の事例で既存の福祉サービスに繋がらない方の定期的来所が継続できる場所として利用した。非行、触法事例へのアセスメントも含めた支援を行ったり、学び方の異なる生徒への学習支援も行っている。当事者からは「また来たい」と希望が聞かれる。

高校生保護者グループでは、知的な能力が高く進学校に通う子どもの保護者が多いのは変わらないが、メンバーが増え、それぞれの不安や相談事を率直に言い合ったり、励ましあえる場となっていた。

成人期では、「発達障害（疑いも含む）のある方の配偶者の集まり」を実施した。全3回の日程で、前半に講義（発達障害とは、カサンドラ症候群とは等）を行い、後半に参加者同士の話し合いのプログラムとした。参加者は2名で、初日はお互い探り探りの様子ではあったが、回を重ねるごとに関係が深まり、最終日には、時間の都合でこちらが予定していた講義が行えないほどに参加者同士で話が盛り上がっていた。内容も大切だが、「似たような境遇の人がいる」「分かる、と言ってもらえる」という安心感が得られた時間・空間となっていたように感じた。

## ③就労支援 (実 55 人 延 220 件) (昨年度：実 63 人 延 239 件)

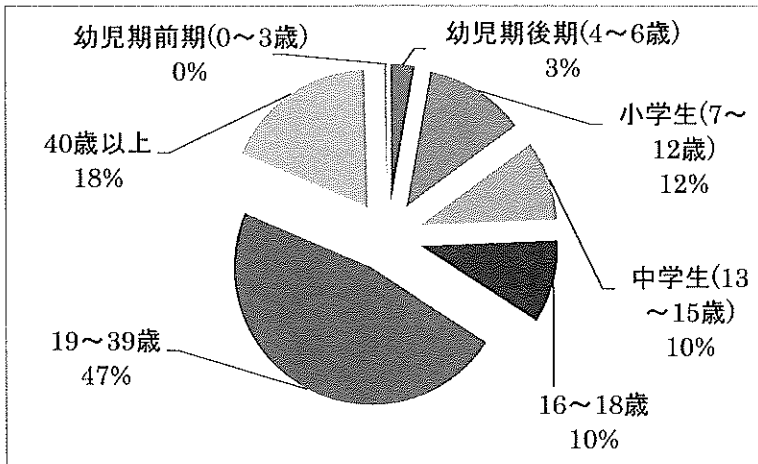
昨年度に比べ、実人数・延件数ともに大幅に増加した。

相談内容としては、他の職員同士の関係性が近く楽しそうに見えることが羨ましく思うことへの悩み（職場に友人が欲しい）や他の職員に対して恋愛感情を抱くことで仕事への支障が出てくるような事例が見られた。仕事内容のことではなく、本人の心情面への対応を求められることがあった。定着支援に入っている他機関と連携を行いながら、「仕事をする」ことでの軌道修正を図った。

仕事内容の変化として、完全在宅ワークを語る求人があり、家から出ることが難しかった相談者においても、自宅で仕事が出来ることでの安心を感じていることがあった。ひきこもっている状態であっても家族が内職の手配をして本人が定期的に内職をして納品をしている事例もあり、就労＝家から出て働く、ということだけではない広がりを感じた。但し、まだまだ求人は少ないので、支援の基本としては、通勤をしての就労を目指すことになると考えている。

(参考データ)

(a) 相談支援 (実人数)



(b) 発達支援 (実人数)

幼児期前期(0~3歳)	0
幼児期後期(4~6歳)	5
小学生(7~12歳)	19
16~18歳	3
19~39歳	6
40歳以上	3
合計	46

(c) 就労支援 (実人数)

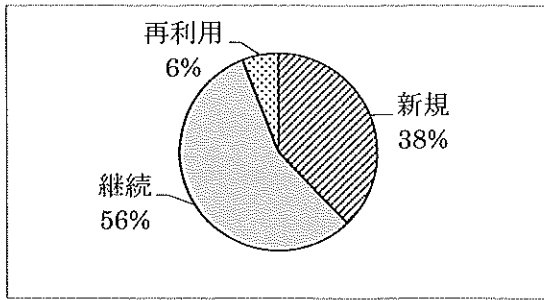
18歳以下	1
19~39歳	38
40歳以上	16
合計	55

(d) ライフステージごとの障害種別 (相談支援実人数)

ライフステージ	幼児期前期 (0~3歳)	幼児期後期 (4~6歳)	小学生 (7~12歳)	中学生 (13~15歳)	16~18歳	19~39歳	40歳以上	合計
自閉症 (知的障害の有無不明)	0	2	0	0	0	1	0	3
自閉症 (知的障害を伴う者)	0	0	6	1	1	10	1	19
自閉症 (知的障害を伴わない者)	0	1	8	0	0	7	1	17
アスペルガー症候群	0	0	0	0	2	14	7	23
広汎性発達障害 (知的障害の有無不明)	0	0	0	5	4	14	2	25
広汎性発達障害 (知的障害を伴う者)	0	0	2	1	3	11	2	19
広汎性発達障害 (知的障害を伴わない者)	0	0	0	6	4	14	4	28
AD/HD	0	0	8	3	5	12	4	32
LD	0	0	0	0	1	1	0	2
その他 (発達性言語障害・協調運動性障害)	0	1	0	1	0	11	3	16
不明 (未診断も含む)	0	4	9	9	7	35	26	90
合計	0	8	33	26	27	130	50	274



(e) 新規・継続・再利用の内訳（相談支援 実人数）



(f) ライフステージごとの障害者手帳取得状況（相談・実人数）

手帳	幼児期前期 (0~3歳)	幼児期後期 (4~6歳)	小学生 (7~12歳)	中学生 (13~15歳)	16~18歳	19~39歳	40歳以上	合計
A	0	2	3	0	0	6	1	12
B1	0	0	2	1	0	8	1	12
B2	0	0	5	6	9	24	4	48
精神保健福祉手帳	0	0	0	0	0	10	10	20
無	0	5	21	19	18	77	33	173
合計	0	7	31	26	27	125	49	265

(g) 年齢ごとの相談主訴

	幼児期 (0~6歳)	小学校 (7~12歳)	中・高生 (13~18歳)	19歳以上
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	0	0	0	9
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	8	28	41	97
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	1	2	3	13
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	0	2	0	12
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	3	17	21	39
進路や将来の生活に関する相談をしたい	0	1	11	25
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	0	2	6	20
今後の就労について相談したい	0	0	0	6
現在勤めている職場に関する相談をしたい	0	0	0	6
その他	0	2	5	22

## 5 機関連携

(1) 発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席  
実施回数(延 27 件)

会議名	役割
加古川市 者雇用連絡会議	障害 委員
障害者自立支援協議会	こども部会 委員
高砂市 地域自立支援ネットワーク会議	委員
教育委員会	専門家チーム委員

(2) 個別調整会議 実施回数(延 36 件)

成人期 中学生、16~18歳の順で多かった。主訴は「現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい」が一番多く、所属している事業所と相談支援事業所で、支援方法について話し合われていることが多い。その中で、ひょうご発達障害者支援センターの役割として、対応方法の助言を

求められることが多い。16～18 歳、中学生では次の所属機関への引継ぎの会議が多かった。

(3) 付置施設 あかりの家との連携

	内容
児童デイサービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例 (自閉症、軽度知的障害)
障害者支援施設 あかりの家 地域支援センター あいあむ	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例

6 調査・研究

- ・各市町における発達障害者支援調査の分析及び役割検討を行った。